男女貞潔之[illegible]　　會長　島田三郎

公娼廢止之主張　　副會長　安部磯雄

4—539

廓清

（毎月一回一日發行）

第八卷第三號

□廓清時言……………………伊藤江南
□物的豐滿の悲哀……前衆議院議長　島田三郎
□酒漸禁專賣論……早大教授　安部磯雄
□支那に廓清會起る……廓清會評議員　高島米峰
□進德會趣意……北京大學總長　蔡元培
□歐米戰時の廓清運動……廓清會理事　油谷治郎七
□帝國議會の廓清……三輪田女學校長　三輪田元道
□日本婦人の反省を促す……鐵道院中管局長　長尾半平
□女大學新評論……………一條忠衞
□武士道の研究（二）……文學博士　井上哲次郎
□家庭教育の缺陷……青山學院教授　塚本はま子
□遊廓物語（十）……婦人救濟係　伊藤少校
□數字上より觀たる吉原………小林隆之助
□編輯局から………………R　K　生

東京　廓清會本部發行

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

●御注文の際は必ず雑誌「廓清」に依る旨御申添を乞ふ●

品質の優秀！

ライオン歯磨

効果の偉大！

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

●御注文の際は必ず雜誌『廓淸』に依る旨御申添を乞ふ●

開拓者

三號目次

■基督教文學の鼓吹
■青年の信仰思想の開發
■文藝及思潮の評論
■海外思潮の紹介

主張

▼基督教と國際心……小松武治
▼新時代と新教義……石川林四郎
▼朝鮮の民族性……元田作之進
▼僕の見た中學生の鍛錬……瀧浦文彌
▼憂國者イエス……石川角次郎

文藝

▼樂土へ急ぐ（詩）イーツより……赤井米吉譯
▼緑の地（詩）……ヘンリ・ヴンダイク
▼二月號の文藝思潮……石田棲路
▼ペン・トビト（小說）……アンドレエフ作　松島穣譯

研究

▼聖書の研究に就いて……今井壽道
▼アモス書の研究……郷司慥爾
▼耶穌の社會訓……栗原基
▼主事の典型（マクボルニー）……小松武治
▼基督教青年會發達史……フィシャー

雜觀

▼東京の講演（平等と秩序）……近角常觀氏
▼高井文學士を想ふ……諸家
▼ルーズベルト氏の書翰▼軍隊慰問使の近況

定價（郵稅共）一部十五錢■半年八十錢■一年一圓五十錢

東京神田表猿樂町一〇　日本基督青年同盟會　振替東京二〇一九六

發行

社會改良

■文化生活の勞働問題……鈴木會長
■戰後と勞働問題……ワードル
■ゴルキイの宣言書
■最低賃銀……油谷治郎七
■勞働諸君に警告す……北澤敎授
■物不足して國亂る……麻生學士
■勞働者と絶望……久留
■餘程考へねばならぬ問題……野坂鐵

□定價□一部六錢、□半年三十五錢、□一年六十五錢（振替東京三三二五一番）

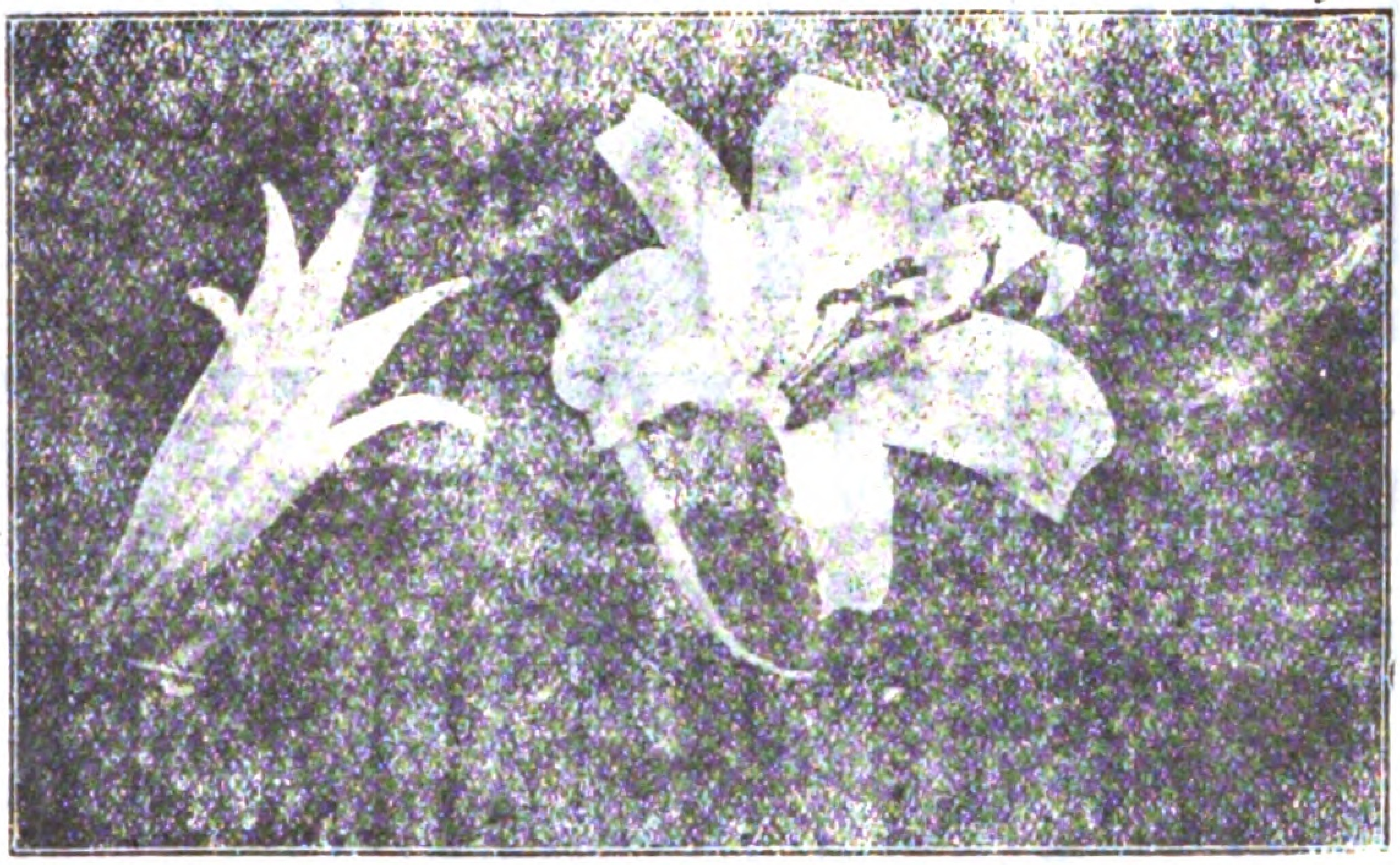
□發行所　東京市芝區三田四國町二番地　社會改良事務所

廓清

THE PURITY

第八巻第三號

大正七年三月



廓清時言

野暮とは何ぞや

吾人の如き廓清運動に携はる者は、動もすれば野暮の二字を以て葬り去らるゝ事あり、抑も野暮とは何ぞや。蓋し野暮とは辭典を借る迄もなく、風流の心なき者、みやびごゝろの無き者の謂也。換言すれば自然を愛し藝術を好む情操の無き義也。果して然らば吾人と雖も通人粹士なるものに比し、風流心みやび心なしといふ可からず。更に野暮とは野夫の轉にして世情に通せずとの義も有すべし。否世情といはんよりは男女間の情事に通せずとの意に多く用ひらる。然れども吾人は不肖ながら男女問題の研究者にして、世人の嗤笑を敢受すべき程不通の者とも自ら信ずるを得ざる也。

頃日偶々狹斜の巷に近き邊りに或會合開かれ、余も亦之に出席したりしが、一友は余と歸路を同うするに拘らず余を避けて先に立歸りたり。余の隣りに座を占めたる所謂通人は、笑つて曰く『××君は近くに寄る處があるんだよ、どうも君は察しがないから困る』と、嗚呼野暮とは即ち是乎。不正なる男女間の交情に對し、同情し同感するの義乎。吾人は正當なる男女關係に對して同情し同感する點に於ては元より人後に落ちざる積りなれど、所謂粹を利かして不正なる情交に同情するが如きは斷じて取るべからず、之をしも野暮といふ可くんば、野暮は即ち本會の使命に非ずや。

然れども名妓高尾猶ほ喝破すらく『ほんとの粹人といふは廓の中などへは一歩も足を入れぬもの』と。さなり金錢を以て他人の節操を蹂躪せんとするが如き徒の何の粹人ぞや。紅花に托して緑酒を酌む者の何の風流ぞや。明月に托して團子を食ひ、白雪に托して美姬を擁する者の何のみやびぞや。

Digitized by Google

Original from COLUMBIA UNIVERSITY

茲に至つてか即ち知る、野暮とは之れ肉慾追求者の謂にして、男女道德を解せざる者に冠らしむべき語なるを。

咄咄銀貨張りの鶴

大阪每日紙は安全辨欄に於て左の如き寄稿を掲げたり、陋怪眞に唾棄すべし、即ち

『株屋の帶傳一派が堀江遊廓の演舞場再築を祝するために、銀貨千五六百圓を張りつけた實物大の丹頂の鶴一對を贈り、豪奢を誇る準備中との記事が一二新聞に載つてゐたが、世人は其記事を面白半分に讀み流し、新聞は其虛名を煽る形跡があるのは慨歎に堪えぬ。金貨を時計の小付にしてゐるのも頗る俗惡であるが、金貨を大切さうに光らしてゐる心根は寧ろしほらしい。銀貨を張つた鶴で廓者を喜ばせ、遊治郎の度膽を拔かんとするが如き帶傳一派の株屋は、社會風敎を蠹毒する害蟲である。彼れ帶傳の如き其資力は未だ世間の信用を得るに足らぬ分際で、早くも虛名を賣らんが爲めに斯くの如き擧に出づるのは唾棄すべきである。成金中には活動努力の結果として尊敬すべき人物も少くないが、彼等帶傳一派の如き行動が社會の風敎を害するので成金呼はりをされて、何時迄も輕侮されるのである。』と。

中學生の女優後援會

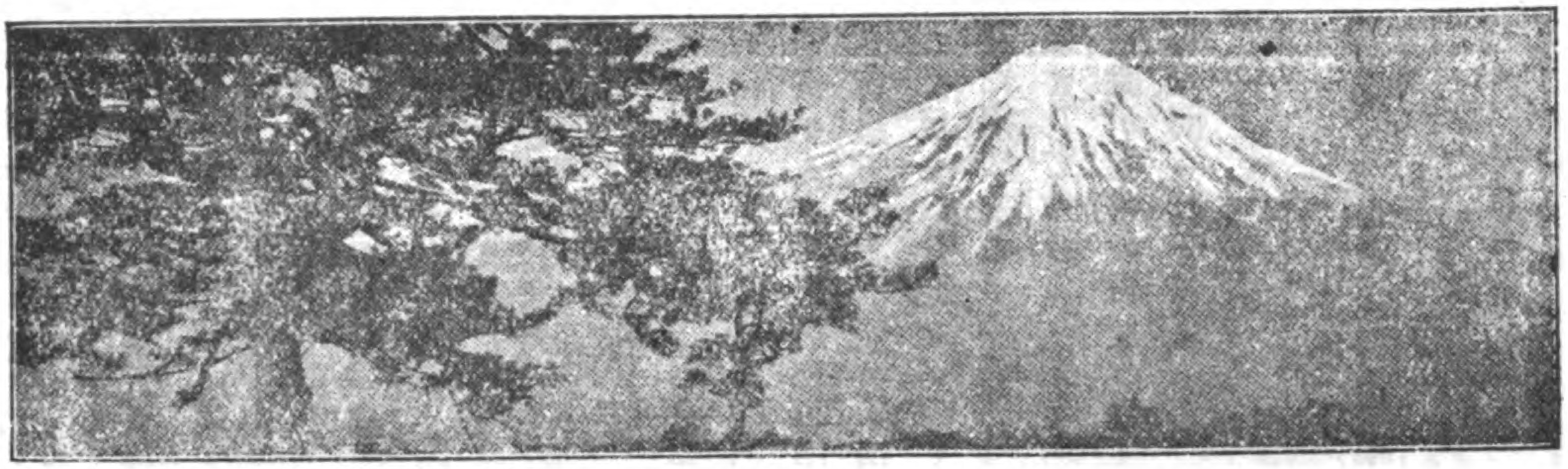
近來都下の中學生中學事を拋擲して諸所の劇場に出入し、剩へ女優を最負とし何々後援團又は後援會と稱する二十人、三十人の團體を組織し、幟、引幕を贈る爲め父兄に對しては學用品を購ふと僞り金員を貰ひ受け、之を會費として昔の所謂堂摺連の如き擧動を敢てし、且つ最負々々により各團體互に爭鬪を試むるなど驚くべき狀態となりたるより、警視廳にては父兄を呼出して注意を加へ、當人にも嚴重なる說諭を加へたりといふ。

中學生にして女優の後援會を組織して、その歡心を買はんことに焦慮するが如き墮落は、眞に震駭すべきものなれど、吾人は單に之を中學生なるが故に驚愕する社會を寧ろ怪しまざる能はず。多くの不良老年が眞の藝術の爲めに後援するに非ずして、秋波を購ひ媚を得んが爲めにする後援會なるものの幾多現存する限り、子弟の摸倣を攻擊するは寧ろ無理なからんや。

押川長官の自殺

製鐵所長官押川則吉氏の自殺は近來の一大事件にして、社會は悚然として驚愕したり。彼の如き高位高官にあつて、自ら生命を斷つに至る原因如何は、未だ之を知るに由なきも、濫りに自殺を以て勇者の事の如く論ずるは誤れり、自殺は原則として奬勵すべきものに非ず、殊に押川氏の場合は、要するに不道德に對する良心の呵責の結果たるだけは明言し得るが如し。自ら感ずる其の不道德なるものが社會より視て果して死に相當するや否やは自ら別問題也。吾人はたゞ今日に於ていふを得るは氏の自殺が一味の清涼劑となりて政治道德の上に好影響を與へ得たるの一事とす。社會が悚然として驚くといふは、即ち同類同臭の戒飭を意味するが故也。(江南)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY



物的豐滿と德性の權衡

前衆議院議長
廓清會々長　島田三郎

近時各方面に物質的豐滿の結果、物質的滿足を得たいといふ慾望が盛んになつて來た。物價騰貴の爲め或種類の人は非常な窮迫に陷つてゐるが、物價騰貴によつて新に富を得たものは、其富をたゞ物質的滿足の爲めに使用しつゝある。社會の健全を求めるには此傾向は極めて危險を含んでゐる。

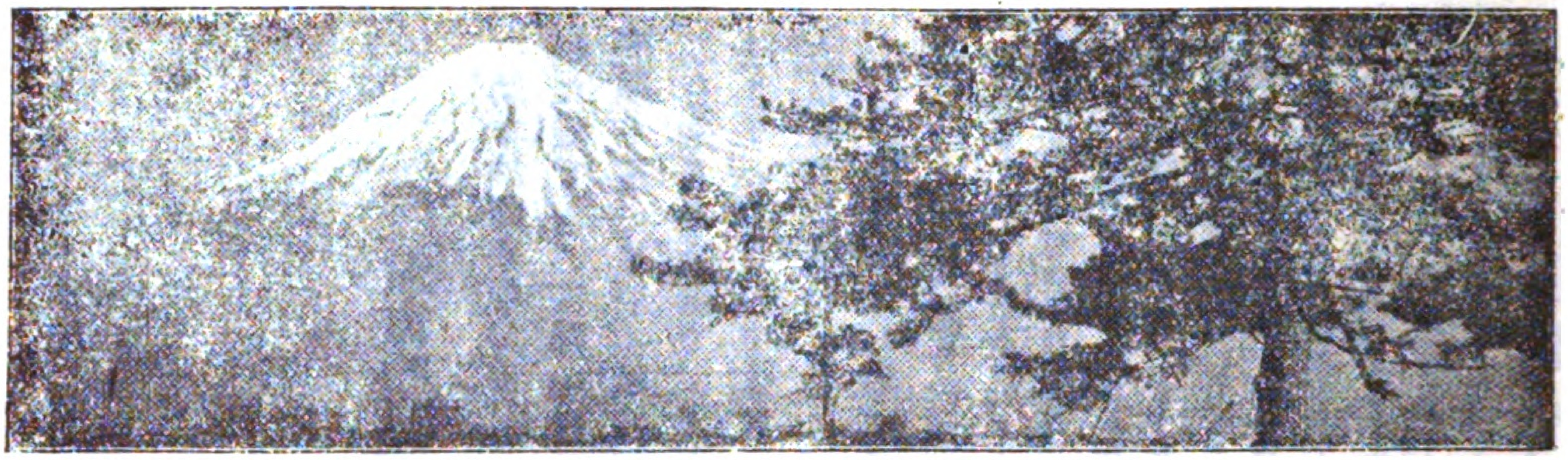
□

此の弊害を除くには一般に高尚な氣風を養成しなければならぬ。過多の富を得たといふ事は、外面から見れば幸福の樣であるが、靜に此結果を觀取すれば、此等の種族の上に多大の危險が迫まつてゐる。人間は肉體と精神と兩面からの調和を得て、そこに幸福があるのであつて、肉體の養ひを缺いて精神の健全を保つ事も困難であるが、精神が墮落して肉體の下等なる慾望の奴隸となるのは、更に一層の不幸である。今日の過當の富を望外に得たものは、此の第二の危險に襲はれんとしてゐる。其の實際に表はるゝ處は如何なるものであるか、放逸となり淫蕩となり、精神の高尚を失つて、其結果は人として品性を傷ひ、家として安寧を破り、社會として病的となる。たゞ之は道德的に表現するのでなく、醫家の語る處を聞くに、生活的に上等社會と自稱する人々の間に、斯害の犯す處となるものが增加する、惡疾の爲めに身を傷つて、更に其家族的幸福を失ふ者が增加するといふ事である。之は物質的供給が精神的修養に比例を失つて、其物質を人生幸福の爲めに利用せずして、却つて其幸福を害する方面に濫用せらるゝ結果である。

□

世人は物質供給乏しき爲めに其體質を害ひ健康を破らるゝのは、直に注意を喚起する。これもまた

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY



社會の基礎を危くするものであるに相違ない。例せば相當な滋養分を採り、善良なる空氣を吸ひ醫師の命ずるが如き要素を攝つて、其體力を養ふ事の必要なる道理は分明であつても、富の力が之に添はざる爲體力を維持し難い種類があつて、彼の肺結核の如き物質の助けを借る必要ある病症も、財力續かざる爲め適當な方法を取る事が出來ずして、其病勢が蔓延するとの叫びはあるが、他の方面の物質供給過多にして、其過多の爲めに體慾の上から身を誤るものが增加するのは、個人を危くし家族を殆くし、社會を危くする點に於てやはり同一の危險を含んでゐるにも拘らず、社會の之れに對する注意を見る事なきは何うしたものであるか。

富の、精神と比例を失つて激增する事は、人の知らざる間に多大の禍害を釀出するものである、此點に就て識者が世の中に警告するの必要がある。富の分配が一方に枯渇して一方に過剩なる事は、貧富階級の反間を生じて平和を害するばかりではなく、道德の點から見ても容易ならざる問題となる。人を唯肉體の生物と見る時には、富が增加すれば幸福は其割合に增加すべきであるが、富の過剩は却つて其人を破壞する點に於て、精神に生きんとする人類にとつては、物質の供給に缺乏したる貧民よりも更に道德性よりは危險である。何となれば物質に缺乏したるものは飢餓の虞れはあるが、一度物質を供給すれば、其缺陷を補ふて救濟の道は忽ち立つけれども、是れと反對に過剩の富を濫用して精神の墮落した者は、其富を取去るとも精神の墮落を取戻す事は出來ない。

□

況んや是に伴ふ遊蕩放逸の亂行の如きは、一旦其惡習に染めば殆んど其精神を腐蝕して、其過剩の物質を取去るも、依然として其病源は其人の固有性と同樣に取去る事が困難である、加ふるに之に伴つて害せられたる家族や其子孫は、永久に其墮落の性を傳播せられて、子孫は生れながらの墮落を免れないのであるから、此點に於ては物質なき貧民より更に不幸の深淵に沈まねばならぬ。

即ち知る物的豐滿は寧ろ戒飾すべくして、心的修養は常に幸福の源泉たることを。我々廓清會員は特に今日の戰亂の齎らす經濟的變潮の、風敎に及ぼす關係に留意して、社會の反省を促すべきである

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

酒漸禁專賣論

早稲田大學教授
廓清會副會長　安部磯雄

□誤られたる禁酒運動

今度議會であまり問題でなく通過したといふ事は、世界の大勢が餘程手傳つてゐると思ふ。露國は戰前既に禁酒令を斷行し、亞米利加は半ば禁酒國であつたが、今度の參戰により全州に禁酒の決心をした。或は英國宮廷の禁酒であるとか斯ういふ事が手傳つて、此の通過を見た事であらう、我々は一方に男女の貞潔問題を唱へてゐるが、酒が男女の風紀を紊す因となつてゐる事を思ふと、我々は一方には酒を退治する方針で進むべきであると思ふ。それに就ては幼年禁酒位ではいかぬ。社會から見れば一種の罪惡とも見るべき此酒は、全然打破る覺悟で努力しなくてはならぬと思ふ。

一體今日迄禁酒運動は、各國ともやり方が間違つてゐる。今迄のは飲んでゐる人を飲ませない樣にする運動であつたが之は勞多くして效が少い。まだ飲んでゐない者が飲まされない樣に、誘惑されない樣にするならば、それが一番効果を擧ぐると思ふ。其意味からいふと幼年禁酒案は確に好い。既に老人や中年の人を止めさせる事は、私は左程熱心に考へない。未だ習慣に染まない人を敎導して行き、五六十年の後には日本を禁酒國にしたいと思ふのである。

□敎育問題と法律問題

幼年禁煙法案が通過した時でも、其後幼年禁酒法案が出された時でも、世間の批評はこれは敎育上の問題で、法律上の問題でないといふ議論があつた。併しそれは所謂一を知つて二を知らぬ議論で、尤もらしい言分ではあるが、世の中の事はさういふものではない。やはり法律は多數の人の心に隨分大なる力を有つてゐる。敎育の上から論ずれば煙草も酒もよくない事は誰しも知つてゐる、知つてゐて其効果が表はれないといふのは、餘りに一般に慣熟して了つてゐるからである。

併しさういふものであつても、一度法律といふもので之を禁ずると、多數の人の頭に入り易い。成程惡い事だなと思ふ。私共は何も法律萬能といふ考はさら〱ないが、始めから酒や煙草の樣な廣く行はれてゐるものを矯正するには、法律の方が力が強いのである。今や幸に段々時勢が進歩して禁煙法案が通過し、又今度禁酒法案が通過する事になつたのは甚だ喜ぶべき事で、必ずよい結果を收めるであらう。彼の禁煙法案が出た爲めに十四五位の少年で煙草をのむといふ樣な事はずつと止まつて來たのは事實である。されば禁酒法案も其通りで、兎に角丁年未滿の人は法律で禁じてあるから從來と考が餘程違つて來る、少くとも法律で定めてあるから他の人が少年に對して飲みたまへと云へなくなる。又斷るにも斷り易い。日本では飲むまいと思つても斷るのに骨が折れる程であるが、法律がさうなると容易に謝絶する事が出來るのである。

□臺灣の阿片漸禁

これも臺灣みやげの一つであるが、同地では阿片を總督府で專賣にしてゐる。全體既に日本の領地となつた以上阿片なんぞを飲ませるのは不都合ではないか、專賣などにすべきでなく全然止めさせるのが當然ではないか、といふ議論が當初やはり起つたと見える。其際時の總督たる今の後藤内相の案だといふが、阿片の如き習慣の深いものを禁ずると秘密に喫み秘密に輸入する事になる、それよりも密輸入を禁じて漸次に減せしむる方針とし、現在習慣のある人は止むを得ないが、新しくは飲ませないといふ事にした。即ち阿片を買ふのは却々矢釜しく、たしか一人一日に就て一匁以上は賣らない。一週間分もそれ以上も一度に買ふといふ事も許さぬ。何でも二日分か三日分位迄で、而も通帳を持つて來なければならぬのである。斯様にして取締つてゐる結果はといふと、年々の統計表は阿片の賣高は金額に於て上つてゐるが、之は阿片に上中下の種類があつて、だん／＼贅澤になつて上等を喫む人が殖えたから、金額に於ては殖えてゐるのだが、人數の方からいふと年々減つて來てゐる。これでやつて行けば阿片と雖も幾年かの後には全然止めさせる事が出來る見込がある。

思ふに之れは凡ての社會の改良をするのに必要ではあるまいか。或は人は禁酒は出來るが節酒は出來ぬといふ。がそれは個人としての話で、飲む人と飲まない人とを區別して、即ち何か嚴重なる方法を講じて目下二十歳以下の者の飲酒を禁じ、其人達が段々長じて行つたならば、飲む習慣のあつた人は死滅して飲まない人達によつて社會が作られる事になる。其具體的方法と成績は既に臺灣に於て示されてある。即ち政府は先づ酒を專賣にして、臺灣のやり方を模倣すべきであると思ふ。

□漸禁主義の專賣

更にまた玆に考ふべき事は、私は全體阿片を飲むのはどういふ狀態なものか少しも知らなかつた。今度臺灣で專賣局に行つて原料から一切說明を聞いた時、序に飲む處も見せやうかといふ事であつたから、それは難有い見せて貰ひたいといふ事になつて、案内された一室には、支那人を一人、お客さんに飲む處を見せる爲めに態々日給を出して雇込んである。彼は卽ち高い阿片を呑み放題であるが、我々は其者の顏を一見して先づ驚いて了つた。といふのは人間の生ける顏を有つてない、宛ら幽靈である。それは全く中毒の結果で、もう步む事さへ出來ないので、毎日總督府の車で送迎をして貰つて居り、そして一日何回となく飲んで見せるといふ事である。

これは實に怖るべき事である。乍併若し日本で酒を專賣にして、酒の味見を雇込むといふ事であつたなら、隨分志願者がある事であらう。私共は阿片に對しては隨分怖れを懷くけれども、酒に對しては同様の考へを持たないでゐる。併し事實は酒の爲めに來る毒はおさ／＼阿片に劣らない。啻に肉體の爲めのみでなく、精神上に一家に及ぼしてゐる影響を思ふと、我々は社會人類の爲めに大々的に奮鬪しなくてはならぬと思ふ。

根本君の案は勿論大に感謝してゐるが、我々は百尺竿頭一步を進め、根本君を助けて政府に酒の專賣を行はしめ、收入といふ事を目的としない、酒から來る收入なども當にしない樣にして、將來は酒を驅逐するといふ方針で、臺灣の漸禁主義を調査して内地に適用する事にしたら、どの位人類の幸福を増す事が出來るかも知れぬ。

支那に廓清會起る

廓清會評議員　高島米峰

□不嫖、不賭、不娶妻

近頃北京大學の總長をしてゐる蔡元培といふのが、我が廓清會に似たる進德會といふのを起すといふので、其趣意書を北京の時事新報に發表した。趣意は可なり長いものであつて支那現代の道德の頽敗してゐる事を歎いて、救濟したいといふ樣な事を支那人流に委曲を盡して書いてある。而して其の募るべき會員の資格を定めた處に餘程面白いものがある。

それは大體會員を甲乙丙の三種に分つてゐるが、甲種會員にならうといふには三ケ條の戒律を保たねばならぬ。第一不嫖、不賭、不娶妻といふのであつて、此の三ケ條の戒律を保ち得るものが甲種會員である。處が支那人の日常生活から此の三つを奪ふといふ事になると、支那人の大多數は生甲斐がないとして死んで了ふかも知れぬ。嫖せざるなく、賭せざるなく、妾を娶らざる者なしといふのが、支那人の現狀で、殊に支那の賭博に關する趣味は非常に强烈なものであつて、海外に十年近くも出稼をして、碌々食ふ物も食はず貯め得た幾千金を愈々本國に歸るといふ船の中で賭博をなし、いざ故郷の港に着くといふ時は國を立つた時と同樣元の默阿彌となつて尚平然悔ゆるな國民であるから、此の一つを奪ふだけでも非常な苦痛でなくてはならぬ。況んや此上不嫖、不娶妻と來ては全く死ぬ氣になるかも知れぬ。彼等支那人が官吏となり、或は其他の事業に勞苦し、金を貯めるのは、畢竟これ嫖せんが爲め、賭せんが爲め、妾を娶らんが爲めであると云つても過言でないのだから、實に大打擊で、從つて支那の道義の頽癈を廓清する事に於て效果のある事に相違ない。

□不作官吏、不作議員

乙種會員といふのは如何かといふに、以上三ケ條の戒律の上に、更に不作官吏、不作議員の二ケ條を加へるのである、議員となるなといふ事は、此頃日本でも田舍に行くと政治運動を烈しくやつて先祖傳來の田地を無くしたといふ樣な事が頻々としてある爲、議員となるなといふ事は可なり多くなつて來た樣だが、官尊民卑の思想が非常に强い日本には、官吏となるなといふ樣な事をいふ者は一人もない樣である。然るに北京大學と云へば官立の大學であるのだが、其大學の總長が『官吏となるな』といふ一戒を設けて、それによりて進德の實を擧げ樣といふ事に着眼したといふ事は、支那の官吏とい

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ふ者が、如何に腐敗し墮落してゐるかゞ思ひやられるのである。けれ共さういふ事を又官立大學の總長が公然發表して之を咎むる者もなく、又咎められ樣ともしないで居るといふ事に支那人の支那人たる氣風を觀取する事が出來る。

日本でも官吏と議員が結托するならば、甚麽惡事でも出來るし、又從來可なり種々なる惡事を行つたらしくも思はれるが、それだからと云つて帝國大學總長山川健次郎氏が、一會を起して其會員の資格を定むるのに『官吏となるな、議員となるな』といふ事を加へるとしたならば、果して如何。

□不吸煙、不飲酒、不食肉

第三の丙種會員は、右に擧げた五戒の上に更に三戒を加へるのである。卽ち不吸煙、不飲酒、不食肉、の八戒を保たねばならぬ。此の吸煙せずといふものゝ中には、無論阿片も含まれてゐるのであらうが、酒を呑まないとか、煙草を飲まないとかいふのは、日本でも實際に行はれて來てゐる樣であるけれども、支那人の煙草及び阿片を吸ふといふ事は、日本人が煙草を嗜むといふ事位ではない。今でも阿片の密輸入や密造が盛んであるといふ樣なことを屢々聞くのであつて到底之を防ぐのが困難だとされてゐるのである。それにも反對して止めさせやうといふ宣言をしてゐる事は、却々立場が立派に考へられる。殊にまた最後の肉を食はぬといふ事も、日本人ならば左したる困難を感じない人も多からうが、比較的に肉を餘計食ふ支那人としては、非常な難事でなくてはならぬ。

要するに我々は、斯ういふ細かい點までも規定して、それによつて支那の國民の道義を振起しやうといふ心持には、實に感歎敬服せざるを得ない。且つ蔡元培氏は附加へていふのに『斯くの如き過ちは誰にでもある事であらう。乍併過去は責めない、たゞ將來を戒めて行きたいのである。』と。

□支那の機運と吾人の反省

而して斯ういふ樣な會をこしらへてどういふ利益があるかといふ事も蔡氏は三段に分けて說明してゐる。それは第一己れを正しうする事が出來る。斯うした會に這入つて斯ういふ誓約をしてゐると、どうしても自ら警める樣になるのだから自然德も進む事になる。第二に人に誘惑された場合に之れを斷る事が出來る。博奕をせいといはれても、自分は進德會の會員であると云へば容易に拒絕する事が出來る。卽ち人の誘惑に打勝つ事が出來る。第三には北京大學も世間から惡評されてゐるけれども、斯樣な會の成立する事によつて、他の譏を防ぎ止める事が出來るといふ樣な意味を書いてゐる。

惟ふに此の進德會の起つたといふ事は、確に支那の現代に於ける道德及び政治上の自覺の機運を覗ふ事が出來るのであつて、殊に北京大學の總長が之れを發起したといふことに、非常な意義を認めてやつてよいと思ふのである。併し乍ら可なりズボラな國民であるのだから、此會がどの位の程度迄實際の効果を收め得るかといふ事は一寸見當が附かない。たゞ支那人でさへ斯樣な運動を起して道義の頹廢を救濟しやうといふ心持になつてゐる時に、日本の我々は一層努力し奮闘しなくてはならぬと思ふ。左は卽ち蔡氏の趣意書で、參考迄に全文を揭ぐ。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

北京大學之進德會

北京大學校長 蔡元浩

今人恒言、「西方尙公德而東方尙私德、」又以爲能盡公德、則私德之出入、曾不足措意、是誤會也、吾人旣爲社會之一分子、分子之腐敗、不能無影響於全體、如疾疫然、其傳染之廣、往往出人意表、昔儀狄作酒、禹飮而甘之、曰「後世必有以酒亡其國者」、遂疏儀狄、而絕旨酒、司馬遷曰「夏之亡也以妹喜、殷之亡也以妲巳、」子反湎於酒、而楚軍以敗、拿坡崙惑於色、而普士之軍國主義以萌、私德不修、禍及社會、諸如此類、不可勝數、又如吾國五六年來、政治界實業界之腐敗、達於極端、而禍變紛乘、侵至亡國者、寧非由於少數當局驕奢淫佚之餘、不得已而出奇策以自救、遂不惜以國家爲犧牲與、易曰、「善不積不足以成名、惡不積不足以滅身、勿以小善爲無益而弗爲也、勿以小惡爲無傷而爲之」、鄙人於十五年前、鑒於吾國該社會主義者因以自便、名爲提倡、實增阻力因、言「惟於交際之間、不介不苟者、夫然後可以言共產、又惟男女之間、一毫不苟者、夫然後可以言廢婚姻、」(見民國野史乙編蔡孑民事略)正此意也、民國元年、吳稚暉李石曾汪精衞諸君發起進德會於上海、會員別爲三等、持不賭、不嫖、不娶妾、三戒者、爲甲等會員、加以不作官吏、不吸烟、不飮酒三戒、爲乙等會員、又加以不作議員、不食肉二戒、爲丙等會員、當時論者、頗以不作官吏、不作議員、二條爲疑然題名入會爲甲等會員者、踵相接矣、未幾鄙人以事由海道北行、同行者三十餘人、李汪二君亦與焉、舟中或提議進德會事、自李汪二君外、同行者率皆當時之官吏若議員輩以官吏議員兩戒爲不便、乃去此兩戒、別組一會、即以同舟之三十餘人爲發起人、而宗遯初君提議名爲六不會、衆贊成之、又同時發起一社會改良會、所揭著者凡三十六條、第一曰、不狎妓、第二曰、不置婢妾、第十九日、不賭博、第廿九條曰、戒除傷生耗財之嗜好、猶六不會意也、其後爲政潮所激盪、六不會若社會改良會之發起人、次第星散、未及進行、而進德會之新分子、則散見於上海之報紙焉、北京自袁政府時代、買收議員運動帝制、攫全國之公款、用之如泥沙、得之者無所顧惜、則狂賭狂嫖一方面驅於徼倖之心、一方面且用爲鑽營之術、謬種流傳、迄今未已、鄙人歸國以後、先至江浙各省、見夫教育實業各界、凡崭然現頭角者、幾無不以嫖賭爲應酬之具、心竊傷之、比抵北京、此風尤甚、尤可駭者往昔昏濁之世、必有一部分之清流、與敝佐奮鬭、如東漢之黨人、南宋之道學、明季之東林、風雨如晦、鷄鳴不已、而今則衆濁獨淸之士、亦且踽踽獨行不敢集同志以驕末、佐間千古未有之現象也、曾於南洋公學同學會(中央公園)及譯學館校友會(江西會館)中提議、以嫖賭娶妾、三戒編入會章、聞者未之注意也、其後見社會實進會規則、有此三戒、而雍君所發起之社會改良會則、事以此三者爲條件、吾道不孤助以張目、惜其影響偏於一隅、旣承乏北京大學常欲以南洋同學會譯學館校友會所提議而未行者、試之於此二千人之社會、會一年來、鞅掌於大體之改革、未遑及此、今改組之議、業已實行、而內部各方面之組織若硏究所敎授會之屬、體育會書畫硏究會之屬、銀行消費公社之屬、皆次第進行、而進德會之問題、遂亦應時勢之要求、而不能不從事矣、會中戒律、如嫖賭娶妾三事、無中外無新舊莫不認爲不德、懸爲厲禁、誰曰不然、官吏議員二戒在普通社會或以爲疑、而大學則當然有此、(法科畢業生例外)敎育者專門之學、業問者終身之事、委身學校、而縈情部院、用志不紛之謂何、且或在學生時代、營營於文官考試律師資格、而要求提前保送、此其躁進與科擧時代之通關節何異、言之可爲痛心、古諺曰「人不婚宦情欲失半、」加特力敎之神父、佛敎之僧侶例不婚娶、西洋大學問家、亦有持獨身主義者、不婚尙可不宦何難、至於烟酒肉食三戒、其貽害之大、雖不及嫖賭娶妾、其紛心之重、亦不及官吏議員、然而衛生味道之樂、亦恒受其障礙、故並存之、春秋三世之義、治起於衰亂之中、用心尙麤觕、及歷升平而至太平、用心及深而詳、故崇仁義譏二名、今仿其例、而重定進德會之等第如左(以下略)

密航醜業婦の取締

■海外醜業に誘拐せらるる婦女子は每年少からず、憐れにも若き女の生き乍ら地獄に投げ込まれ、誘拐鬼の餌食となり、悲慘なる最後を遂ぐる者數ふるに遑あらず、各地水上署は鵜の眼鷹の眼で網を張れるも、其上を行く誘拐鬼は巧妙なる手段を弄して鋭き官憲の目を掠め居れるが、彼等誘拐鬼が巣窟たる

■南洋諸島へ送り出すに最も便宜させるは新嘉坡なるを以て、其筋に於ても新嘉坡行各汽船に對しては特に注意を加へ居るを以て、誘拐鬼は神戶及び門司港を一週間に三回宛出帆すべき上海香港行汽船を利用し、香港上海に於て更に新嘉坡行旅行免狀を受け、誘惑の目的を達するものあり、香港、上海、新嘉坡間には

■人買の市さへ立つとの噂あるより、新嘉坡及び上海帝國領事館は、同地警察と打合せ、誘拐婦女子の保護として、上海香港に於ては新嘉坡行旅行免狀を下附せざる事となし、一方日本出帆の際新嘉坡行婦女子の旅行免狀は、嚴重なる取調の上、下附する事となり、多數婦女子の被誘拐者の保護をなす事に決定したりと。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

大戰亂と廓清運動（其二）

□□英國戰時の廓清運動□□

廓清會理事　油谷治郎七

一　英國陸軍の廓清運動

故英國元帥キチナー卿は自ら持すること頗る謹肅にして、軍を率ゆるに亦用意の周到なる名將であつた。其軍を歐洲大陸に出すに當つて、先づ出征軍人に諭すに剛毅勇敢忠實親切廉潔等の道義を全ふすべきを以てし、而して最後に於て強く性慾の誘惑に勝ちて奮鬪すべきことを警告して曰く「爾等の責任を完ふするには爾等の健康が十分でなくてはできぬ。故に斷へず其慾情を抑制することに努めねばならぬ。此新しき經驗に當つて爾等は酒と女との誘惑に會するであらう。爾等は全く此二つの誘惑に抵抗せねばならぬ。固より凡ての婦人に對して十分に禮節を重んせねばならぬが、決して親密になり過ぎぬやう愼まねばならぬ。」

英軍の進むところエヂプト及びトルコの村落にもフランスの都市にもベルギーの野にも、到るところ獨逸軍に劣らざる強敵が散在してゐる。此魔軍に勝つべく十分なる克己心を皷舞せずんば、戰鬪効率の減殺せらるゝは明白である。キチナー將軍が敵に勝つために先づ己に克たねばならぬことを戒告されたのは尤も適當なることである。

英國の廓清會本部と云ふべきアソシエーション、フオア、モーラル、エンド、ソーシアル、ハイジエーン、(道徳的及び社會的衛生協會)にては「出征軍人への戒告」A warning to Men going abroad と題する小冊子に於てキチナー將軍の所謂「誘惑に抵抗せねばならぬ」理由を詳細に述べて、之を多數軍人に配布した。而して協會の名譽主事ドクトル、ヘレン、ウイルソンは陸軍卿に長文の意見書を呈し、痛切に軍隊と賣笑婦との關係につきて論述するところあり。佛國に於ける英軍の營所に近き都市の娼家は佛國官權と協同して閉鎖せしむること。英軍將校の識見を啓發し賣笑婦と戯るゝを以て「必用なる害惡」と見るが如き謬見を打破するに努むること。病毒豫防器を兵士に授け却て其克己心を削るに至るを戒むべきこと。軍隊附の牧師の感化を強からしめ且つ慰樂及び運動の機關の整頓を計り、軍人をして自ら誘惑に抵抗する力を旺盛ならしむるにつとむること。陸海軍病院が不潔の行爲を覺ゆるの學校となるの恐あれば十分内部の道義的空氣の濃厚なるやうに意を用ゆべきこと。などの諸點について當局者の注意

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

を促した。陸軍當局も大に其意を諒として着々實行してゐるやうである。

二　朝野協力の花柳病撲滅

先きに千九百十三年十一月二日勅命で設けられたる花柳病調査委員十五名の調査報告書が公表せられて、少からず世論を動かした。之に依るに英國海軍に在つては、黴毒患者の數は、千九百五年には千人につき四十八人・九二の割合で、千九百十二年には同二十八人・九三に減じ、淋毒患者の數は同年に於て、千人につき六十二人から五十七人・六一に減じてゐる。而して陸軍に在ては、入營檢査に際し梅毒のため不合格となれるもの、千八百九十年には百分〇・六三で、千九百十一年より十二年には百分〇・一四に減じてゐる。海陸軍ともに減少しつゝある傾向を示してゐる。調査委員は之を以て足れりとせず一層嚴重に撲滅の策を施さんことを欲し、三十五條の注意を與へてある。而して國家的に花柳病撲滅會を組織すべきことを提案したが、直ちに世論の容るゝところとなり調査委員會長ロード・シデナムを其會長とし朝野の名士を網羅したる有力なる團體を組織した。ナショナル、カウンシル、フォア、コムベーチング、ヴエネリール、デイジーセスと稱してゐる。而して地方政務省と聯絡を以つて互に補佐するやうにして働いてゐる。乃ち調査委員の勸奬するところに基き、此會の助力を頼み、千九百十六年七月衞生局は國内の各市町及び各郡に告げて、國民保健のため、殊に軍人保護のため、花柳病撲滅策を講ずるやう努力すべきを命じ、(一)病院及び施療所には花柳病專門の診療場を特設すべきこと、(二)サルヴアルサン(六百六號)若くは之に代るべき藥を準備し容易に患者に分與すべきこと、(三)花柳病の診察及び治療の研究的設備を完ふすることを勸めた。且つ全國の町村役場や開業醫に配布する「花柳病患者への敎示」「花柳病の危險と其治療法に關する注意」等この病毒豫防と治療に關する十數の小冊子を以てした。英國議會に於て政府の公言するところによれば、市町村に於ては衞生局の旨を體して熱心之が爲に盡してゐるやうである。一方には花柳病撲滅會の代表者は市町の責任者及び病院維持費寄附者の門を叩き其趣旨の貫徹に努てゐる。ポーツマウス、リヴアプール、ロンドン及びニユーカツスル等の大都會に於ては、花柳病患者の診療設備は殆んど完全に出來てゐる。一都會に於ては昨年六月までに其公立病院と施療所に於て無料診療せるもの四千件以上に達してゐる。斯くの如く朝野力を協せて、其病毒の恐るべきを知らしむると共に、病毒に冐されしものには容易く迅速に診療を受くるの便宜を供へ、以て其病毒を初期のうちに撲滅して傳播の患を絶たんとしてゐるのである。

三　病毒に對する取締の峻嚴

花柳病が傳染病である以上は傳染病として取扱はるべきものであるとは、英國多數の新聞及び議會の演説に現はれたる輿論である。而して昨年二月の刑法改正案には「花柳病患者にして其傳染狀態にあるを知りながら、他に之を傳染せしむるに至りしものは二年以下の懲役又は禁錮に附し、若くは警

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

察裁判の上にて六ケ月以內の入獄に附せらる」と云ふ峻嚴なる條目がある。更に又昨年五月議會を通過した法律には「花柳病條例」と呼ぶものあり。官許を得たる醫師のほか何人も花柳病の診療をなすを禁じ、又其診療を施す廣告揭示等をなすを禁じ、此が治療の藥品又は器具の販賣と廣告と施與とを禁じてある。

リヴアプール市及び二三の大都會に於ては、產兒の花柳病毒を有する兆候あるものあれば、助產婦は直ちに其小兒と產婦の姓名と住所とを衞生吏員に報告すべき義務あり、衞生吏員は迅速に醫師を其家に派遣して小兒及產婦を診察し治療を施すやうにしてゐる。

四　醫師會と義勇團の活動

醫務局の醫員のみでなく花柳病撲滅會の派遣醫員も、力を協せて兵營に於て花柳病の危險を說き、性慾の誘惑に克つべきことを警告してゐる。圖解又は活動寫眞を加へて斷へず通俗講演を兵舍に催し、又は小冊子の配布に努めて軍人の保健敎育に盡してゐる。各所の醫師會や「名譽同盟團」等は義勇團を組織してこの運動を補佐してゐるが其活動は實に活潑なるものである。

軍人にして花柳病に冒されたるものは、米國では罰を受くるが英國では罰がない。然し長官は訓令を發し軍人の斯る病毒に冒さるゝを以て非常なる耻辱として自ら愼むべきを命じ且つ若し其病毒に感染せるときは速に軍醫の診療を受くべきことを命じてある。隱蔽して軍醫に告げざるときは嚴罰に處せらるゝのである。各隊の軍醫は軍人の報告に接せるときは極て迅速に診療の手當をなすべき責任を有してゐる。一方には敎育して以て自ら豫防せしむるの策を講じ、他方には早く診療して以て他に感染するを防ぐ。

五　ロンドン街上の廓淸

廓淸運動の急先鋒たる「ナショナル、ヴイジランス、アソシエーション」の主幹クート氏も手を拱してゐない。盛に節酒を奬勵し、女色の誘惑を除き、壯快なる野外運動を皷舞し、積極的なる健全なる性的敎育を主張してゐる。ロンドンの如きはベルギーの避難婦人や、フランスからの出稼婦人で充滿してゐる。下級音樂館のみか、其街路は是等の怪しき女子の橫梁を極てゐる。前內務卿ハーバート、サムエル氏の語るところによれば、千九百十四年、千九百十五年及び千九百十六年の八ケ月の間に、ロンドン警察長官の手で、街上に於て男子を誘惑するの故を以て拘引せられたる婦人の數は實に一萬四千六百人である。而して其相手は十中九まで軍人である。濠洲南阿等より來れる兵士である。クート氏は痛く之を憂ひ、ロンドン監督や警察長官サー、エドワード、ヘンリーを始とし、義膽ある貴婦人等と協力して「ロンドン街上の廓淸」に關する團體を組織し、ロンドンが歐洲魔軍の脚下に蹂躪せられんとするを防ぐにつとめてゐる。其一例を擧ぐれば、婦人警官の數を增し、平服のまゝにて活躍せしめてゐるが、其効果は少からぬやうである。(つゞく)

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

帝國議會の廓清

三輪田女學校長
廓清會評議員　三輪田元道

□寧ろ無言の雄辯に如かず

凡て物は進まざれば退くのが原則であるが、帝國議會の歷史は年々歳々進歩する歷史でなければならぬのに、實際に於て其形跡なきは、墮落に近きつゝあると云はなければならぬ。初期の議會の如きは、議員が議院政治に慣れぬため、随分まごついた人もあるし、又勿體らしく演說をしたりして、如何にも初々しい所があつた。故に當時の議會は議員としての技術は非常に幼稚なものであつたが、今日の議員は演說も旨く答辯も旨くなつた。

然れども此等の演說、答辯が一のアートとして取扱はるゝ様になれば、一種の技術としての技能は發達するが、之がために國士たる議員の資格には何等の價値を添えない。今日の帝國議會は勿論、昔と比較して特種の點に於ては多少の進歩を認むるかも知れぬが、全體としては進歩したとも云へぬ。結局政治家の務めは眞に國利民福を計るにあるので、若し議員に利己主義の點が一點でもあるならば、是は決して許すべからざることである。

所が今日の議員は、演壇に立つ前に何を言ふか腹の中まで見透かされ、又結論も見ぬかれて居る。寧ろ斯んな風ならば、無言の雄辯と云ふ事がある如く默つて居る方が優つて居るかも知れぬ。それのみならず加ふるに日本の議員には皆黨派的の色彩があり、共通の利害關係あるものでも、事を議するに凡て黨派的に爲すの傾向あるは眞に國利民福の理想がないためである。

□偉大な政治家は無貯蓄

政治家は其個人の生活に於て、一個人の私腹を肥やす様な人ならば其の偉大は疑はれる。眞に偉大な政治家は決して富を造ることをしない。西郷隆盛があれだけの偉人でありながら非常に名利に淡白であつた。彼が遂に國事犯にまでさせらるゝ程多くの民衆に信望されたのは、彼の偉大を示した所以である。世間周知の事實は西郷が大久保利通に送つた手紙である。其手紙に彼は「君は此頃西洋館を造つたさうだが、其れは同僚に對しても申譯ない事ではないか、我が家法は子孫の爲めに美田を買はず」と叫んで居る。

國士と云はるゝ人は内所で貯金をする様な人ではない。又近くは故伊藤公は金に淡白な人であつて敬服する價値ある人であつた。曾て私は大磯の蒼浪閣を見たことがあるが、最初、大政治家の別莊なれば定めし莊麗を極めたものであらうと思ひの外、入つて見ると甚だ粗末なもので、建築などは幾回も幾回も修繕したものであらう、其他庭と云ひ、石と云ひ皆粗末なものばかり、之を見て私は流石は伊藤公であると感心した。又最近に於ては此事を押川長官に見る事が出來る。彼

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

に對しては世間に兎角の批評はあるが、彼は長く知事を爲し、殊に最後は一國の大經濟を司る製鐵所の長官であつたけれども、貯蓄などは更に無かつたのは實に感服の至りである。

要するに政治家、行政官、敎育家或は宗敎家でも私腹を肥すが如き人は偉い人とは云はれない。偉人とは、國家の爲め、人類の爲め、同胞の爲め働く人である。個人の利益を貪る人は小人である。此點から見れば、現代日本の議員は皆偉くない。中には尤も貧乏な議員も居るが、併し彼等は國利民福の爲めに貧乏して居るのではなく、選擧運動費や賄賂の爲めに財產を倒盡したのである。貧乏にも種類がある事を知らなければならぬ。斯の如き議員が、何んな演說をしやうが何んな議案を議しやうが、妨害にこそなれ、一國の利益とはならぬ。乃公こそ國士であると云はん計りの態度をした所が、其人々の腹中の解剖をすれば何があるか。

□車夫馬丁に等しき態度

次に衆議院議員の態度は車夫馬丁の態度に擇ぶ所がない。俗に穢多人非人といふ言葉があるが、彼等はまるで其れである。彼等のお土產議案なるものは、車夫馬丁が祝儀を貰ふと同樣なものである。議員の此の卑しむべき言語動作が帝國議會のみならず、今日は引いて縣會、郡會、村會等に及び、此等の地方議員なるものは皆相競ふて罵詈讒謗し、大聲叱呼し、甚だしきは道化役者の態を演じて平然たるに至つたのは、即ち彼等が範を作つたのである。されば其責任は彼等が當然負ふべきであつて、彼等は國家後世のために宜しく謝罪しなければならぬ。之は吾人の見て以て甚だ遺憾に堪へざる點である。

□議員は低能兒であるか

第三に異樣に感ずるは彼等は國家の議員にして、一區域一地方を代表するものでないにも拘らず、唯一地方一區域の利益のみを計り、自分の人格を小ならしむる事である。苟くも國家の進步發達は之を大局より觀るべきものなるに、彼等はさうでない。例へば高等學校設置問題の如き、其遣方は後世より批判して貰つて誤りなきを期すべきであるのに、彼等は只奪ひ合つて居る。衆議院には何百と云ふ議員が居るのに一人として大局に目を注ぐもの丶無いのは歎はしきの極みである。高等學校は宜しく東京地方に二三校を置くべきものである。何となれば學校は其土地の人口に比例し又其卒業生の數に比例すべきものであるからである。東京には現に數十の中學あり、每年數千人の卒業生を出しつ丶あるに、高等學校は僅かに一校しかないのは大に不足である。故に先決問題は、二つ以上の高等學校を東京に增設することであるが、斯の如き事を主張する議員は藥にしたくも無い。皆悉く一地方、一區域のためのみの利益を計つて居る。而も只其地方に學校を立つるのみならばまだよいとしても、其目的が其地方繁榮のためであると云ふに至つては言語同斷である、是は恰も遊廓保存者が、遊廓其物は害あるが、土地繁榮のために止むを得ないと云ふのと同然である。此の如き利己的な偏狹な量見から生れた高等學校は其町村の爲めに取つても害あると共に、國家のためにも不利益である事は明白である。

又、高等學校を建てる時には其地方の人が寄附をしなければならぬと云ふが如きは地方人民を侮辱したものであると云はなければならぬ。一國の敎育費は宜しく國庫の負擔に屬すべきものであるのに、僅か四、五十萬圓の費用を地方民に仰

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ぐと云ふに至つては、大臣も何も面目あつたものではない。國家の事は國家自ら獨立經營すべきものにして、教育費の如きは其豫算を堂々と議會に提出すべきものであるのに、之を爲さゞるのみか、其の遣方を見て、一人も詰る人もなく、質す人もなき有様は誠に遺憾に堪へない次第である。之を見ても、いかに議員の理想が低く、人格が下劣であるかゞ解る。皆次回の選擧の落選を恐れて、ひたすら其地方民の甘心を買はん事のみを努めて居るのである。

又、高等學校學制案なるものを見るも、高等學校の上には當然大學を置かねばならぬのに、大學案は提出されて居ないのは片手落ちの感がある、高等學校のみを増設した所で大學校を増設しなければ高等學校の卒業生は途方に迷ふではないか。此の不統一な四離滅裂な事を互に議して居る議員は低能兒ではあるまいか。彼等には只目前の事のみを考へて遠大の理想といふものは少しもない。政治家の理想は國家百年の大計を立つるに在るべきものが百年の大計どころか國家三年の計も立つて居ない。此の活きた實例の一つを捕へて見るも議員の無理想無人格が明かに解かる。苟くも國士を以て任ずる衆議院議員たる者は大義名分のため、國家のために働かざるべからざるに、此國士の風は彼等に少しも見られぬ。

□議員は人間の價値なし

最後に、矢島揖子氏が毎議會に法律改正案を提出する事が月並問題となつて居るが是には世間の同情なきよりも寧ろ議員の自覺が無さ過ぎる。日本全國には若い働き盛りの公娼が五萬人からあつて、皆不生産的な行を爲し、遊蕩を爲し、罪惡の種を蒔き、病毒を傳染せしめつゝある。之に私娼を加ふれば十萬人に餘る婦人が貞操を弄ばさるゝのみならず、罪惡の製造者となつて居る。故に此の如き忌はしき問題は、矢島氏を待たずして解決すべきものであるのに、一人も之に意を拂ふ議員は無いのを見ると彼等議員には人間としての價値はない。此等の議員が上にあつて豫算を議したり、國事を談じたりするのは人民に對して申譯ない筈であつて自ら辭職すべきものである。見よ米國人は奴隷解放の爲めに戰つて香ばしい名を歴史に殘して居るではないか。然るに日本には奴隷にも劣る公娼制度を許して一人も之を怪しむ者なきは國家の體面としても耻づべき事ではないか。

要するに私の帝國議會に望む所のものは、國士として一片の私心よく一身を國の爲めに捧ぐる眞面目の議員である。此の如き人を要望して、此の如き人に政治をやつて貰つたならば、隆々として日本の國運は進歩するであらう。然るに利己的の人のみ集まつて、田舍芝居の樣な騷ぎをする體を見ては私は日本國の前途の爲めに悲しまざるを得ない。今日生活難の問題、海外思想の問題が世間に聲高きも、それよりも一國の牛耳を握る人、一國の木鐸たる人の品性を改良せざれば、生活難よりも海外思想よりも其の結果は怖るべきものがある。故に彼等を鞭撻し激勵して良政治を行はしむるのは、國民の責任である。卽ち玆に議會に對する感想を述べて議員諸氏の反省を乞はんと欲する所以である。

女大學新評論（一）

一條忠衛

□女大學の由來

女大學は明和九年三月に、大阪の柏原清右衛門といふ人に出版された書である。卷頭には『貝原先生述作女大學』と記され、終には『益軒貝原先生述』と書かれて居る。この明和九年と云ふ歳は益軒の歿後五六十年に當つて居るが、この書が生前中に出版されないで歿後五六十年に至つて突然刊行されたと云ふことは、此の書に對して作者の眞價を疑はせる原因になつて居る。今日までの通説によれば、大阪の商人が益軒の聲名を利用して何人の述作にか成れる坊間に於ける和文の婦女訓を爾來男子が讀んで來た漢文の大學に因んで、女大學と命名して印行したもので在るとされて居た。然るに或る一部の考證家の研究によれば

現在貝原家の口傳には益軒の妻東軒が、益軒の趣旨に基いて述作したものとされて居ると云ふことである。其の眞疑は今遽に速斷する限りでないが、兎に角女大學といふ一書が明和九年に大阪の書肆で出版され、それが圖らずも明治に至るまで大凡百五十年間に及んで江戸時代の女子に對して洛陽の紙價を高くし、女子教育の唯一經典となり、金科玉條とせられ、天下を風靡し盡したのである。現に吾々の母又は祖母といふ人達はこの女大學によつて薫陶され、吾々の血液には深くこの女大學の遺傳性を胎藏されて居る。それで今日吾々の姉妹が日進月歩の女子高等教育を受け、嘗て祖先の用ゐた女大學の如何なるものであるかをまだ知らない女學生であつても、女大學より享けた遺傳性によつて、日常習慣の間に女大學の教訓が到るところに活躍されて居るのである。

女大學を見もせず讀みもしないで、只だ仄な又聞きによつて陳腐であると罵つて居る夫人令孃諸君の日常行爲に、女大學の教訓が無意識の間に社會性となつて甚だしく蟠屈し、動かすべからざる勢力を有して居るのが、大正今日の我國に於ける婦女界の狀態である。一般の學者も亦た女大學の批評などは既に過去のものに屬して居ると思惟されて居るが、余はその故きを温めて新しい問題と爲して、女子の自覺を促がす運動の一助に加へたいのである。

□女大學の趣旨

女大學は讀んで字の如く、女の大學である。換言すれば、女子が學んで以て大人淑女となる學問である。別言すれば、女子が婦徳を積んで良妻賢母となる修身書である。それで女大學は男子の大學や和俗童子訓に對して、主として女子の爲めに書かれた童女訓である書中の或る場所では父母に對しての教訓になつて居るところもあるが、全體の趣旨に於ては年少なる女子の嫁入準備としての教訓である。それで女大學は直接には男子には用がないのである。男子には男子の大學や和俗童子訓があるから、女大學は讀むに及ばぬことに爲つて居る。男子にして女大學などを讀むは、餘程の物好きに過ぎない。更に之れを論評などする連中は以ての外の過ちで一代の奇人に外ならない、だから二宮尊德翁は「夜話」で下の如く言つて居る。「或日、女大學は貝原氏の著なりと雖も、女子を壓する甚だ過ぎたるにあらずや。翁曰、然らず女大學は婦女子の教訓至れり盡せり。婦道の至寶と云ふ可し。斯の如くなる時は女子の立つべき道なきが如しと雖も、是れ女子の教

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

訓書なるが故なり。婦女子たる者、能く此理を知らば實はざる家はあらず。舜の瞽瞍に仕へしは則子たる者の道の極にして、同一の理なり。然れども若し男子さして女大學を讀み、婦道はかゝる物さ思ふは以ての外の過ちなり。女大學は女子の教訓にして、貞操を鍛錬するための書なり。夫鐵も能く鍛錬せざれば折れず曲らざるの刀さならざるが如し。總て教訓は皆然りされば男子の讀むべき物にあらず」さ翁の意見によれば、女大學は全く婦女子の教訓書であつて、男子が之れに對して云爲すべきもので無く、又た讀むべきもので無いさ云ふのである。さうして翁によれば、女大學は婦女子の教訓至れり盡せるもので、婦道の至寳であるさ云ふのである。翁も亦た女大學を讀んだ物好の一人であり、女大學を云爲し之れを評論した一代の奇人であつた。更に明治に至つて又た一大奇人を増加した。それは福澤諭吉さいふ人である。青年の頃より女大學を愛讀して評論數通を作り、晩年に至て病床に横臥しながら、之れを整理して女大學評論二十篇新女大學二十三篇を書き上げて瞑目した。かやうに過去の偉大なる男子は何れも不思議にも女大學を讀み、それに對して明確なる識見を有し、女子に對して眞摯なる同情を有して居た。男子は男子の大學を有して居るから直接に女大學によつて自己を修養する必要のないことは如何にも二宮翁の言ふ通りであるが、又た男子は娘の親であるから娘を教育する爲めに男子さ雖も此の書を窺つて置く必要のあることは、如何にも福澤翁の言ふ通りである。更に余の提言を加へれば、男子は妻の夫であれば、妻の婦道に對して我が夫道を相務的に規定する必要があるから、男子さ雖も間接に此の女大學を窺つて置く必要があるさ思ふのである。

□女大學と時代思潮

女大學は江戸時代の中頃に生じた時代思潮の産物である。それで封建時代を背景としての建物である。随て父權的家長制に由り、男系本位の家と云ふ姓氏を基礎として教訓を編まれて居る。だから男子の家長權の下に多くの家族を糾合して居る謂ゆる家族制度の寵兒として生れたのが此の女大學である。

故に女子の教訓は第一義的には家に關して律せられ第二義的には生みの親(主さして父)に關して律せられ第三義的には舅姑に關して律せられ、第四義的には夫に關して律せられ、第五義的には僅かに自身の爲めに律せられて居る。さころで女大學の教訓は女子が、(一)家に對する義務、(二)生みの親に對する義務、(三)舅姑に對する義務、(四)夫に對する義務、(五)自身に對する義務の六項を包含して居る。随つて女大學は女子より、家、親、舅姑、夫に對する道德になり、その關係は父權的家長制の結果さして上下の別を生じ、下より上に對する道德になつて居る。童女に對して、家、親、舅姑、夫に奉仕する道德を規定したのが此の女大學である。勿論女大學の中には親に對する教訓も混入して居るが、それは單に例外の形になつて居る。だから舅姑が嫁に對する道德又は夫が妻に對する道德なるものは固より、この女大學には無い。またそれを云ふのがこの女大學の目的では無いことになつて居る。女大學は飽く迄も封建時代に於ける童女の教訓書である

だから女大學は封建時代の生活機關である家族制度に胚胎し、家族制度を維持して封建制度を安固にするに、緊要缺くべからざる女子教育の大方針を指摘したものである。それ故、女大學の家族制度には離るべからざる關係がある。女大學を否定すれば家族制度をも否定せねばならぬし、家族制度を肯定すれば女大學をも肯定せねばならぬし、二者は到底分立の出來ない歴史的關係を作爲して居る。然らばこの江戸時代と家族主義の時代思潮によつて副産された女大學を、今日吾々は如何に取扱ふべきであるか。吾々が明治維新に於て世界の大勢に促されて封建制度を棄てた如く、今や世界の大勢に基いて家族制度の時代思潮を棄てねばならぬか。更にその時代思潮の美果であつた女大學をも終に棄てねばならぬか。

三輪田元道氏は『女大學の研究』に於て左の如く答へられて居る。

「女大學一面に亙つて居るのは家族制度に適應するやうになつて居ることであります。是れは日本の國に於きましては、どうしても斯くあらなければならぬ數が澤山に此中に含まれて居るのである。例へて申しましたならば、夫の家に行いては、專ら舅姑を我親よりも重んずべしさ云ふことがある。我親よりも他人の親を

重んずることが出來るか出來ぬかと云ふことは、餘程疑問である。けれ共日本の樣な家族制度を基にして別居制度の認められない國民に於きましては、どうしても自分の親より舅姑を重もんずると云ふ覺悟が無ければ、平和は保てぬことは明かである。其點からして、日本の今日の狀態では、尙ほ女大學の如きものが活きて働いて居つて貰はなければならぬと云ふことが、言ひ得やうと思ふのであります。それと同時に此家族制度の國でありますと、即ち小姑と云ふやうなものも是亦已むを得ざることである。今日の富の程度から云つても、習慣から云つても、新夫婦が別居出來ないと云ふ社會であつて見れば、其間はどうしても夫の兄弟にも仕へると云ふ道を置かなければなるまいと思ふ。それが此中に澤山含まれて居る。此點だけは其當時の日本の社會に、大變適應した者であらうと思ふ。今日でもまだ適して居ると思ふが、唯茲に條件を付けたいのは、行く〱社會が個人主義になりまして、さうして財產の相續制度が變つて、財產は長子相續でなくして兄弟之を等分する、或は個人主義の思想の結果としまして、舅姑のみならず、小姑とも皆な別居すると云ふやうな時代になつた時には、昔し家族制度に適したものが適しなくなると云ふことが謂ひ得やうと思ふ。要するに萬古不易の道を立てやうと云ふのは、活きた社會には餘程困難である。故に是れも一時的のものではあるが、兎に角今日の日本では、まだ生命を有して居る者であると云ふことが謂ひ得やうと思ふ。」

以上、三輪田元道氏の意見は過去に於ける日本社會の狀態を描寫したものとしては頗る肯綮を得て居る。けれども、人間は智能の不斷的發展者であるから、常に己が社會の生活規定に關しては、內部の精神により理想を描き、之れを刷新し改造して進むのである。吾々は過去又は現在に滿足して居るべき者では無く、過去現在を評價し、之れを超越して、未來の向上を企圖する者である。そこに日進の文明があり、月步の進化がある。家族主義の下に姑嫁の同居を無上大法として小姑に對する絕對的義務までも內規し、之れを以て女子教育を劃一的に律することは今や世界の大局の上からは許されぬことであると思はれる。個人の人格の尊嚴を害してまでも舅姑に盲從し、小姑に奉仕し、夫君に雌伏して貞順を强ひられ之れを以て良妻賢母の唯一の典型であると敎へ込まれる說には、大に反對なる女子が我が國の社會には今日無數に出て來たと信ずる。新夫婦の別居は事實上に於て我が國の社會の到る所に散見する。上は皇室を始として貴族富豪の一群は大抵別居である。姑嫁の同居を國風である、などと云ふは一片の虛言ならば兎に角、眞理として聞く時は江戶時代に於ける士農工商の舊慣を談じたに過ぎない。吾々は何事でも今や世界的に進展して最高の原理によつて批判し、最善を捉へて之れを生命と爲し、新人として人格を實現しなければならぬ者である。過去の陋習を偏重して家族主義を擁護し、死せる女大學の生命を引き伸ばさんとするは、眞正なる敎育者の態度で無いと思はれる。福澤諭吉氏は氏の『新女大學』に對する世の反對論を豫想して、左の如く云はれた。

『今の新日本國には自ら新人の在るなり我輩は此新人を友にして新友と共に事を與にせんとする者なれば、彼等の反對は恐るゝに足らず』と。然り、余は福澤氏の謂ゆる新人の一人として、翁の新友となつて、茲に女大學新評論一篇を草して大方の識者に問はんとするのである。

□女大學第一章批判

一、夫女子は成長して他人の家へ行き舅姑に仕ふるものなれば、男子よりも親の敎緩にすべからず。父母寵愛して恣に育ぬれば、夫の家に行て必ず氣隨にて夫に疎まれ、又は舅誨へ正ければ堪がたく思ひ、舅を恨誹り、中惡敷成て、終には追出さ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

れ恥をさらす。女子の父母我訓なきことを謂ずして、舅夫の悪しきことのみ思ふは誤なり。是皆女子の親の教なきゆゑなり。

先づ此の章の劈頭に掲げられた『夫女子は成長して他人の家へ行き、舅姑に仕ふるものなれば男子よりも親の教緩にすべからず』と云ふ道徳的規範は、家族主義より規定したる婦道の第一要義であつて、法律ならば憲法第一條と云ふところであるが、之れには無批判的な三個の獨斷が含まれて居る。第一には『女子は成長して他人の家へ行く』と云ふことである。

女子が成長して他人の家へ行くと云ふことは、此の道徳的條文によれば女性の當然的社會性となつて居る。女子たる者は成長すれば、何人と雖も、他人の家なる所へ行かればならぬ道徳的義務を先天的に享有して生れて來たやうである。然らば此の他人の家とは抑も何處に存する家を指すのであるかと云ふに、それは自分が嫁ぐ家である。卽ち女子が嫁に貰はれて行く先の家である。換言すれば、舅姑の家又は夫の家が謂ゆる他人の家である。既に讀んで字の如く他人の家であるから、勿論自己の家では無いのである。そこで女子の結婚と云ふことは如何なることであるかと云ふに、成長して後に他人の家へあだかも猫の子が貰はれて行くやうに、貰はれて行くことに當るのである。自らその眞人と與に新に自己の家庭を作り求めることが女子の結婚では無くて、或る既成的な先祖累代の家なるものに從屬して、その家族の一員に加へられることが結婚である。若しこれを嚴密に云ふならば、結納の金品によつて甲家より乙家の男子に女子を賣り渡すことが女子の結婚になつて居る。それで女子は第一に、他人の家卽ち夫の家に嚴存する家憲を無上大法として、一切の權威に服さなければならぬ義務が生ずる。自分の家では無く全く他人の家であるから、其の他人の家なる所に於て生活するには、灑掃應待より座作進退に至るまで日夕その家に存する一切の權威に服從することが、彼の女の生活の典範になることは毫も怪しむに足らぬ次第である。他人の勢力範圍に入りて僅に與へられた特定の自由によつて生活を許されて居る身分であるから猥に自己の自由意志を用ゐて生活の進展を要求することの出來ないのは、女性一般に屬する禁制となり、普遍的教訓となつて來る。けれども此の普遍的教訓なるものは今日の我が國の社會に於ては、果して一般の女子を律し得る道徳的法則であるか何うか。女子は成長して他人の家へ行くと云ふことは、果して人生の眞相を得たる批判的道德であるか何うか。今日の我國の女子には成長しても他人の家へは行かず、その眞人と與に新に己が家庭を作る者が日に月に續出して居る有樣である。他人の家へ行くことを嫌つて、自ら自己の家を作り求めて宇宙間に於ける安息所と爲し、卽日以つてその家の主婦たらんとするとは、現代思潮より見たる女性の要求であると思はれる。骨董的な他人の家の權威に服して奴隸的生活を爲すことが結婚では無くて、自ら我が根本より作り齎らしたる家の春風駘蕩中の住人となつて、人格的生活を鴻圖することが結婚であると云ふ自覺に達して來たと思はれる。女大學に於ける他人の家なるものは今や女子に對する普遍的教訓の權能を失つて、新に自己の家なるものが其の後任と爲らんとして居る。從つて他人の家に屬する一切の權威なるものは日に月に衰頽して、これに服して平然たる女子は次第に其の影を失つて來るのである。これは他人の家なる規定は全く女子の人格を束縛した一個の桎梏に過ぎない結果であつた。

第二には、『舅姑に仕ふるものなれば』と云ふ道德的規模が掲げられて居る。これは女子が他人の家へ行つた結果として、結婚より生ずる當面の義務である。女子は成長して他人の家へ行くことが結婚であるから、隨つてその家の家長權に服し、親權者に仕ふることは他人の家に屬したる者の義務であり、それが嫁の舅姑に對する孝道になるのである。

それで舅姑に仕ふることは結婚の本體とも謂ふべきものであつて、女子一同に對する道德法則になつて居る。それで女子に取つては結婚の結婚たる所以は、『舅姑に仕ふると云ふ』一大特色に存するのであるから、舅姑と爭ふなどと云ふことは以ての外のことで、最大なる惡行爲である。女子は成長して他人の家へ行つたならば、徹頭徹尾その家の舅姑の命令に服して奉仕の萬全を期さなければならない。けれども此の道德的法則は、今日の我が社會に於ては果して女子一同を律し得る普遍的の教訓であるか何うか。女子の結婚の本體が舅姑に仕ふるに在りと云ふ獨斷に謹聽して居ない

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

女子が、今日我が國の社會には却々多いことであると思はれる。結婚の本體は夫婦の人格的和合に存することを一たび自覺した女子は、かゝる獨斷的敎訓によつては其の靈肉を支配されては居ないと思はれる。果して然りとすれば、女子の結婚はその眞人と與に自己の家なるものを作り求め、その家の主婦となつて兩本位に於て人格的和合の生活を目的として居るのであるから、舅姑に仕へることは結婚とは關係の無いことである。唯だ愛人の親であると云ふ點に於て敬愛するに止まるのみで、之れと同居することを根本的義務として買はれて居る譯のものでは無い。親夫婦と子夫婦が隔絕千里の間に生活して居ても、それは決して不道德と解すべきもので無い。殊に今日に於ては職業上別居しなければならぬ境遇の者は次第に多くなつて來たのである。又た養子と云ふが如き柔弱の行爲を嫌ひ、奮鬪努力して一家を立てようとする二男三男四男五男六男と云ふ連中は必然的に別居者である。隨つて其の細君等には舅姑と云ふものを持たないのである。卽日以つて宇宙間を支配する女神である。此の間に在りて獨り舅姑を有して地上の奴隸たる者は、謂ゆる長男の甚六と云ふ人の細君ぐらゐな者である。故に嫁姑の同居と云ふことは宇宙に何等の根柢を有する事柄では無くて、全く地上の俗事に過ぎないのであるから、女性を規定する絕對的法則であると云ふことは出來ない。女子は必ずしもその舅姑と同居しなければならぬ義務はない。同居は眞に或る個人的な場合に於ける便宜に外ならないので、女子一同を律する普遍的敎訓で無い。それで「舅姑に仕ふるものなれば」と云ふ敎訓は全く過去に於ける獨斷の桎梏に過ぎなかつた。（拙著男女道德論第七章姑嫁問題參照）

福澤氏も亦た殆ど余と同論であつて、姑嫁の爭鬪を未萠に防ぐには、別居より外に妙案のないことを主張されて居る然るに之れに對して吉田熊次氏は『女大學の研究』に於て左の如く反駁された。

「女大學と新女大學との相違は、女大學は何處までも舅姑に仕へると云ふことを女子の當然の事柄として居ります。卽ち親子同居を以て本則と看做して敎訓を施して居るのであります。然るに福澤氏の新女大學にありましては、親子は別居すべきものである。家庭のいろ〳〵な不和は不自然なことを强ゆるから起る。卽ち子として生みの父母に親しむの念は自然の人情であるが舅姑を生みの親の如く見よとか、自分の親よりも尊べとか云ふことは、不自然なことであつて、固より出來難いのである。出來難いことを强ゆるから、何時でも不和が起る。さう云ふ不自然なことを取除くべきであると云ふのが、福澤氏の根本の思想であるやうに思はれます。親子同居すると云ふこと、又親子別居すると云ふことは、單にそれだけで濟むことで無くして、其奧には個人を主として行くか、卽ち個人の人情を主として行くか、日本に古來傳つて來たところの家族本位の社會組織を維持して行くかと云ふ、根本問題に接觸して來ると思ふのであります。」と云つて、更に法律の親族篇に說き及ぼし、西洋は夫婦の婚姻を以て家の起因となし、日本では先祖傳來の家と云ふものがあり戶主權の下に結婚を生ずるのであると爲し、これを以て日本の國風であると爲し、家族制度を鼓吹し、福澤氏の新女大學を排斥されて居る。

之れに由つて觀れば、吉田氏の根本思想は家族制度を肯定し、家長權の下に女子の婚姻を主張するに在るので、その立場は女大學の作者と同一であつて、福澤氏に對する反駁は女大學の精神を敷衍し江戶時代の女子敎育論を奉ずるに過ぎない形になつて居る。殊に氏が夫婦の婚姻を以て家の起因と爲すことが西洋の國風であると爲し、先祖傳來の家によつて親權の下に結婚することが日本の國風であると解剖したのは、單に過去に於ける社會的事實の斷面圖を示されたに過ぎないので、それを以て直ちに今日に於ける世界人の道德的生活の旗幟となし、準率と心得るなどは、學者の事業としては早計である。若し正確に論斷するならば、西洋と雖も過去の社會に遡れば希臘羅馬猶太の諸邦に在りて、先祖傳來の家によつて親權の下に結婚するのが國風であつた。又近く東洋諸國に例を取るならば、印度と云ひ支那と云ひ、三韓、女眞、渤海、蝦夷、熊襲に至るまで、皆な同一の國風を有して居た。獨り之れを大和民族の國風であると稱することは出來ない。さうして、假令過去に於てはそれが吾々の道

德的生活の規範であつたにしても、それが今日に於ける吾々の實生活の典範であるが爲めには、確實なる實證と嚴正なる批判とを要するのである。吉田氏は家族主義の哲學觀より、家の國民的意義を説き、祖先崇拜の次第を述べ、姑嫁の同居の當然たるべき理由を論結されるかも知れないが、それは不幸にして今日に於ける吾々の實生活を支配する理論とは沒交渉である。何となれば、家族制度は世襲の地位、土地、家祿、又は政府の保護によりて農工商の下に、長男又は長女の相續と二男三男四男五男の婿養子とを根本的原理として始めて組織され、そこに先祖傳來の家なるものが存續するのである。

然るに今日の如く、精神の自由競爭となり、經濟の自由競爭となり、能力次第で如何樣にも天地に雄飛し得る自由を解放されたから、二男三男四男五男と云ふ連中は婿養子になぞなつて頓首九拜して居るには及ばないので、相率ゐて獨立獨歩を以て一家を立てる風潮になれば、先祖傳來の家なるものは極めて少數となつて來る。單に長男又は長女として生れた者のみが先祖傳來の家を有し、長男の妻又は長女の婿養子は、他人の家へ行つて他人の先祖傳來の家なるものに屬し、その他の男女は必然の結果として新に家を起し、舅姑のない天地に住むことになる。而かも斯かる生活を欲求する男女であるから、先づ男子であれば長女の婿養子たることを嫌ひ、女子であれば舅姑を有する長男の妻たることを嫌ふ人達であるから、先祖傳來の家なるものを必要としない連中であるに由つてその子孫は父母の精神を奉じて悉く同一傾向を帶ぶることになり、二男三男四男五男、二女三女四女五女と云ふ男女の新家庭が續出して、社會の一勢力となり、一代限りの家が天下に頻出する譯である。だから精神の社會的開放と經濟の社會的解放とは、終に男女をして婿養子を嫌はしめ、女子をして舅姑を有する長男の妻たることを嫌はしめ、その結果は家族制度をして風前の燈たる觀を呈せしめたのである。これは他人の家の權威に服して奴隷的生活を爲すことを避けて、自己の家にあつて精神的に經濟的に人格の實現を企圖せんとする近代人の偉大なる道德的自覺に基くもので、一夫一婦の新家庭を以て家とせねばならぬ時代の到來を告ぐるものである故に吾々は自己の兄弟姉妹の數に從つて各々その自己の家に於て、その父母の家を精神的に繼承し、肉體的に持續するので、長男又は長女のみが先祖の祀を爲すと云ふが如く墓の番人たることを學ばないのである。長男又は長女のみが故山に埋れて居て、三年の喪は愚か生涯の喪を覺悟して、先祖の墓畔に幾多の亡靈と與に棲まねばならぬならば、愈々以て長男の妻たることを嫌ひ、長女の婿養子たることを嫌ふ男女の續出することは人情の自然ではあるまいか。尙ほ之れを以つて祖先崇拜と爲し、國民道德と爲し、大和民族の美風と爲すならば、その妄論に驚かざるを得ないのである。吉田氏は頻に國風と云ふことを言はれたが、吾々は理想的人格の追求者であるならば、單に過去の傳統的なる國風を無批判的に墨守して居る必要はないので、大に世界的に最善なる形相を探り、最美なる內容を探つて生活しなければならない。そこに新しい意義に於ける國風が生ずるのである。然るに氏には斯かる考が見えて居ない。女子を一概に他人の家へ行くべき運命者と解し、舅姑に仕ふる宿命者と看做し、更に親の家長權によつて嫁入を命令される被治者として取扱つて居る。女子は何故に他人の家へ行くべき運命者であるか何故に舅姑に仕ふべき宿命者であるか、何故に親の家長權によつて嫁入を命令さるべき被治者であるかを反省する餘地を許されず、全く人格の自由を拘束された一箇の奴隷に過ぎないものになつて居る。吉田氏の主張はこの奴隷の肯定であつて、その過ちはアリストーテレスと軌道を同じうして居る。然るに福澤氏の主張はこの奴隷の解放である。舅姑の桎梏に惱める嫁の解放を目的とするのである。その精神はアブラハム・リンカーンと同一である。（つゞく）

内ケ崎作三郎氏序
一條忠衛氏著
男女道德論
四六版 美本五百頁
特價壹圓 稅共
右廓清會本部に於て取次

時局と婦人の覺悟

鐵道院中部管理局長　長尾半平

一　英國婦人勞働者の活動

今回の戰爭は、正しく世界的大戰爭である丈けに、人間社會の各方面に向つて、著るしき革命を與へ、また今尚ほ與へんとしつゝあるのであるが、其内に就て、此戰爭の齎らし來つた最大なる產物の一つは、確かに社會上及び經濟上に於ける婦人の地位に著るしい革命を起しつゝあると云ふことである。此戰爭前には喧しい懸案となつて居つた所の彼の婦人の參政權問題の如きも、戰爭の發生と共に著るしき發展を遂げた。今や歐洲に於ては、一部極端なる頑固論者の外は最早此問題に向つて異議を挾むものなきに至つた。そこで昨年の六月には、英吉利の下院に於て、大多數を以て婦人の參政權を認むるに至つたのである。又之よりも更に一層大なる事實は、戰局の進展に伴ふて、女子は漸次男子の職業を奪ひ、盛んに之に代はるに至つたことである。今や各交戰國の勞働界に於ては女子勞働者なるものが、新に堅固なる地歩と偉大なる勢力とを保つに至つたことは、此戰爭が齎らし來つた最大なる產物中の一つと謂はねばならぬ。殊に英吉利では、開戰當時卽ち一九一四年の七月に、女子勞働者の數が、總計三百十六萬三千人であつたものが、開戰後次第に增加し一九一六年の四月の調査に依れば、總計三百七十六萬人に達して、差引約六十萬人の激增を示して居る、其後の調査の結果は未だ聞かないが、是れ丈けの增加が開戰後一九一六年四月に至る二十一箇月間に起つたのであるから、して見ると、其後更に二十一箇月を重ねたる今日、英國に於ける女工の增加數は既に百萬に近きものあることかと思はる。そして以上は、工場又は商店等に於て勞働に從事する「女子勞働者」Work-women であるが、若し夫れ更に調査の範圍を廣うして所謂「職業女子」Occupied women を數ふるときは、一九一六年の四月の調査に於て、既に總計五百五十萬人に達して居つたと云ふことである。且つ從來は女子なるもの丶勞働能率に就て一般に少からざる疑問を持つて居つた、婦人は一部の勞働を除くの外は到底男子の勞力に對する安全なる代替性を有せざるものと見做されて居つた。それが今回の時局に際して、出征せる男子に代へて使用せられて見ると、意外に勞働能率多きものなる旨を立證された。新に工夫されたる機械の助けに依るからとはいへ砲彈を初め各種の兵器の製造と云ふ如き荒仕事に於てさへ、男工に讓らざる成績を示しつゝありと云へば、此

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

後は他の種の勞働に就ても、機械と設備に幾分の工夫を凝らして女工向きに造りさへすれば、殆んど如何なる仕事にも從事し得ると評判されて居る。

英國の婦人勞働者が何故に斯く評判がよいかと云ふに、皆相當の教育があり修養があつて、僅か二三週間敎ふれば、直ぐ其技術を會得するからである、中には上流の貴婦人なども自働車の運轉手になつて居るさうである。之に依ても英國の今日の狀態が思ひやられるが、敵國獨逸の戰時狀態は如何と云ふに、獨逸では、馬肉は全く缺乏して狗肉を食し、草を食しつゝある。又米國に於ても、砂糖及び麥粉の食用を廢する樣になつたと云ふ事である、英國にては月曜、木曜の兩日は馬鈴薯を食はない事になつた相である。又先日の獨帝の演說には、獨逸國內のものは犬と雖も働かざるべからずといふ意味の言葉があつた樣である。

二　日本人は上の空である

翻つて世界各國が斯くの如く死物狂ひになつて奮鬪しつゝあるに際し、日本は如何と云ふに、世間の好景氣に伴れ有頂天になつて騷ぎ廻つて、何處に戰爭があるかも知らぬ有樣である。アドバタイザー紙上に出て居た樣に、日本人の思想界は退歩した樣に思はれる、日本では日淸戰爭、日露戰爭、日獨戰爭を經て幸ひに勝利を得たのは天祐である。日露戰爭凱旋の際、兒玉大將は、日本が露西亞に勝つたのは天祐であるとか云つたが、全く其通りであると思ふ。今回の日獨戰爭に至つては、嬰兒の手を捻る樣なもので、僅か三萬五千の兵が青島に行つたのみである。實際日本は開闢以來今日まで眞の國難と云ふものに遭遇した事がない、全くの天下泰平である近頃、關西の一料理屋の一日の收入が平均三萬圓に上り、又世間の好景氣に連れ、今年正月の三箇日の吉原、洲崎は近年になき繁昌を見、中にも洲崎の如きは三箇日を通じ上り高三萬五千圓に達した相である。而してこれ皆殆ど成金の落した金である。農商務省の前に一待合がある。日本人は平常「時は金なり」など、口に言つて居るが、世の成金連中は自働車を乘り廻して此の待合に至り一夜遊び通しである。文明は我儘を增長させるものである。自働車は文明の利器であるが、之が惡用さるれば却つて有害である。英國首相ロイドジョージ氏は、世界に時めく大宰相の地位に上つた今でも、幼時、母から一個の卵を兄弟二人に分けて貰つて食べた事や、兄弟二人手を携へて日曜學校に行つた事などを決して忘れないと云ふ事であるが、是を日本の成金連中に聞かしてやりたいもである。米國加州のパレ・ネブ・レスには時々蜃氣樓が現はれると云ふ事だが、日本人は恰も此の蜃氣樓の樣なものを望んで居るのではなからうか。賴みにならぬ空なるものを見て其れを得るのが成功だと思つて居るのではなからうか、日本人は確かに只物質、只成功にばかり執着して居る。スポルジョンは「人間は成功に依て誘惑されて居る」と云つたが、日本人などには殊に此の感がある。

昨年の五月一日、高知の人中川某は大阪に上り來りて、飛田遊廓廢止問題に就て、熱烈な文字を並べて市民に愬へた。演說に先つて彼は自ら指を切り血を以て『祝融來る』の四字

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

を地べたに書き、速かに飛田遊廓を廢止せざれば再び火災は大阪全市を灰燼に歸せんと叫んだ、其の當日折しも、アートスミスは大阪市上に飛行して、「酒と女とを廢しなければ日本は滅亡する」との意味のビラを空中より大阪市中に撒き散らした。五月一日は實に期せずして此の二勇士が天と地とより相呼應して大阪市民に警告を與へた記念すべき日であつた。

三　日本婦人に覺悟ありや

有史以來、空前絶後なる歐洲大戰爭で、世界は得がたい大教訓を受けて居るのに、日本のみは何等の教訓をも受けない。天を仰いでも地に伏しても、到る處教訓に充ちて居るのに、之を知らぬのは盲目である。心ある人は皆之れを心配して居るのである、日本の風紀が今の樣に頽廢して居ては、聯合軍が勝つても負けても日本は心配で堪まらぬ、日本人は僅かばかりのはした金を得て喜んで居る時ではないのである。最近露國の革命以來、東洋の風雲急なるものがある、何か日本に大事が起りさうである。一朝事起り婦人にまで動員令下る時に日本婦人は果して此れに對する覺悟を今より定めつゝありや否や。一旦動員令が下る時に、婦人は自分の好む役割を望んだ所が、皆悉く希望の役に立さはる事は出來るものではない。軍需品の製造等の如き科學の智識を要する役目に任せざれた時に、日本婦人は英國婦人の樣に活動が出來るかどうか疑問である。溫室に育つた花は寒い空氣に觸るれば忽ち枯れる。日本の奧樣では恐らく英國婦人の如き働きは務まらぬであらう。日本の奧樣も固より教育を受けた事は受けたが、奧樣になつてからは其れを棚に上げて少しも顧みない。如何にも日本の奧樣の室は立派であるが、臺所は少しも改良されないで、神武天皇以來の摺小木と摺鉢とが勢ひを逞うして居る。之に反し獨逸人の臺所は病院の如く設備が安全に出來て居る。或人は「文明は捻るものなり」と言つたさうだが獨逸の臺所は凡て此電氣仕掛で、何でも用が足りる。

近頃、物價騰貴の爲め、政府では品川に靑物市場を公設する計劃なさうであるが、併し幾ら公設市場を開いた所が、日本では餘り効は有るまい、何となれば、日本婦人は勿體ぶつて、折角の市場が出來ても、西洋婦人の樣に自ら買出しに出掛けて行かないで、矢張り從前の通り女中を使はすからである、日本婦人は先づ此の虛榮心を除去しなければならぬ。

日本の家屋は比較的清潔であつて、日本人は世界にも稀な綺麗好きの國民であるが、併し家屋の清潔といふ事よりも其中に働く日本婦人の心の清淨さいふ事が大切である。紀元前六百年頃に存したゾロアスター（拜火敎）の本體は火であつたが、此火を拜した所以は、火に入れば凡ての物が清淨にされるといふ理由に基いたものである。日本のみならず、獨逸でも清潔は三德の一になつて居るが、併し日本の板の間が幾らピカ〳〵光つて居ても精神的に不潔では駄目である。アリストートルは「男女相合ふ所に家庭あり、家庭相集る所に國家あり」と言つた如く、各自の家庭が不潔であつたならば其國家は清潔でないと云はなければならぬ。そこで私は、此の家庭を物質的にも、精神的にも綺麗にせよと云ふ事を日本の婦人に願ひ且つ愬ふるのである。（文責記者）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

武士道の研究（三）

郡清會評議員
文學博士　井上哲次郎

□武士道と忠君の思想

武士道は唯武藝を云ふのではなくして武士の守るべき道德をいふ事は、既に前に辯じた通りである。然らば其の道德は如何いふものを指すかといふに、先づ第一に忠君の道德で之れが古來最も重んぜられて來た。武士の守るべき道德の最も重要なるものは、此の忠義と孝行とであるが、忠孝の觀念は日本に於ては支那と大分異つた處がある、支那では兎角孝を第一に重んじたもので、忠よりも孝の方を重しとしてある然るに日本では孝よりも忠の方が重んぜられて忠孝が一致しない時には孝を捨てゝ忠を取るのは、既う一定した我日本の道德觀念である、從つて此の忠君といふ事が建國以來重んぜられて來たのである。大伴氏の歌の中にも、

海行かば水漬屍、山行かば草むす屍、大君の、邊にこそ死なめ、顧みはせじ。

と斯ういふ具合に潔く君の馬前に討死するといふ考へが見えてゐる。また、

大君にまつらふものと云ひつげる。ことのつかさぞ梓弓手にとり持ちて劒太刀。腰にとりはき。あさまもり。夕のまもりに大君の。みかどの守り我をおきて。また人はあらじと。云ひたてゝおもひしまさる。

といふのは矢張り忠君の意味である。これ等は日本古來の武臣の家に發達した思想であつて、此の忠君の精神は武家時代を通じて明治維新の際に至る迄も變らないのである。鎌倉時代に於ては源の實朝の歌に、

山は裂け海はあせなん世なりとも、君にふた心我あらめやも。

といふ樣なのがあるが、これ等は實に武士の道德として最も重要なるものを歌つたものである。武士の道德としては其の自己の生命を豫て君に捧げてゐる、自己の生命を自己の勝手になるものとは考へてゐない、之れは君の爲めに盡すべき本務があるからして、其爲めに豫て捧げて居るのである。故に自分のものであつて自分のものでなく、從つて死は鴻毛より輕く又泰山より重き場合がある、君の爲めに捨てなければならぬ場合は死は鴻毛の輕きに比せねばならぬが又一個の私の怒りの爲めに一命を果すなどゝいふ事は君の爲めに相濟まぬ事である。此命は君の爲めに捧げなければならぬ時のあつた場合に、大切な本務を盡す爲めに必要なものであるから輕々

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

しく捨てゝはならない。考へれば却々生命を重んせなければならぬ。そこで又死は泰山より重き場合があるのである。

或は武士道に於ては餘りに生命を輕んずるといふ者がある。なる程餘りに輕々しく一命を果してある樣な場合が隨分あらうけれ共、それ等は必ずしも武士道に適つてゐるとは限らない、武士道には今述ぶるが如く生命を泰山の重きに比して大切にせなければならぬ方面がある。かの宗良親王の歌に、

君の爲め世のため何か惜しからん、捨てゝ甲斐ある命なりせば。

また梅田雲濱の歌に、

君が代を思ふ心の一すぢに、我身ありとは思はざりけり

といふ樣なのは、何れも君の爲めに一命を快く犧牲に供するといふ精神で、武士道の上から見て誠に立派である。これは今日に於てもさう變つたことはない、形式は多少變つて來たけれども、やはり軍人などが其一身を唯私の爲めにどうしても好いといふ事の出來ない樣なものである。一旦緩急ある場合は大に爲すべき事があるので、其爲めに生命を泰山の重きに比せなくてはならぬ、如斯は全く同じ精神であらう。或者は又武士道は奴隷的であるなどゝ嘲る。けれどもそれは其弊害のある處を指摘していふのであらうが、併し武士道は眞に無我的の方面があつて、精神上誠に潔白である。そして其犧牲的精神の誠に熾んなるは殉教者の精神と變つた事はなく、實に立派である。武士が自分で自分の生命の始末をつける處などは生命を超絶した理由があるので、奴隷的どころか實に此上なき獨自の自由を發揮した方面があるのである。

□武士道と愛國の精神

第二に注意すべきは愛國の精神である。通例忠君と愛國とは並び稱せられて居つて、之は日本に於ては全然一致して相戻らぬものである。支那であるとか或は西洋であるとかでは忠君と愛國とが矛盾する場合があるけれども、我日本に於ては忠君は愛國となり、愛國は忠君となる。其の相互關係は誠に立派である。之れは國家の性質が自ら然らしむるのである吉田松陰が、

今我爲國死。死不背君親。悠々天地事。
感賞在神明。

といふてゐるが、之等は忠君愛國の一致を云ひ表はしたものである。それから安積五郎の

君の爲め國のためには惜しからぬ、數にもならぬ賤が身なれば。

の歌の如き、君の爲めに盡す事も、國の爲めに盡す事も全く相戻らぬ意味が言ひ表はされてある。斯樣に日本では忠君と愛國とが全然一致する樣になつてゐる、それでまた「盡忠報國」などゝもいふのである。

愛國といふのはパトリオチズムの飜譯であるやうにいふ人があるが、決して左樣ではない。愛國といふは古く支那でも先秦の時代に言つたもので、日本に於ても持統天皇紀に見えて居つて、日本でいふ愛國といふのはパトリオチズムと少し違ふ。パトリオチズムは主として其國土を愛する事である。日本の愛國は國土のみならず國體をこめていふのである。日

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

本の此一種特有なる國體に對しての熱烈なる忠愛の情をいふのである。

斯く武士道の精神は主として忠君愛國にある。忠君愛國の爲めに武勇を發揮して行く處に武士道が成立つのである。徒らに蠻勇を揮ふのが決して武士道ではない。道徳に適つた勇氣でなければ眞の勇氣とは稱せられない。道徳に適はぬのは蠻勇とか匹夫の勇とか他の名稱で言ひ表はす樣になつて居る其違ひが甚だ大切な點なのである。

□武士道の武勇と名譽

第三に武士道に於ては武勇を尙ぶ、武勇を尙ぶ點から云へば決して死を恐れない。卑怯未練といふやうな事を忌み嫌ふ事甚しくして、衆に率先して武勇を表はすといふ點に於ては彼の『志士不忘在溝壑。勇士不忘喪其元。』といふに同じである。徳川時代の學者、たとへば山鹿素行の如きは『死節』といふ事を說いて敎へたものである。死節とは豫て死を覺悟してゐることである。もう自分の命は捨てゝかゝる。たとへば家を出て他所へ行く場合は再び其家に歸らぬでもいゝ何時何時死ぬか分らぬといふ決心を以て出る。從つて何者をも恐れぬといふ勇氣が出るのである。素行は斯樣に死節を敎へたのであるが、門人の大道寺友山などは正月の元旦に既に死を決してかゝるといふ樣な考へであつた。如何にも極端のやうであるけれども、又武士道に於て決心の強いといふのは斯ういふ處から來てゐる、之れに反して西洋の文學者、又は思想家などの內には非常に死を恐れて、如何にも笑ふべきやうな事があるのである。假令ばドウデーであるとか、ゾラであるとか、或はトルストイであるとかの如き、非常に死の觀念に惱まされたのである。死の事を思つてそれが恐しさに堪へられない、哲學者のショーペンハウエルなども非常に死を恐れた、處が武士道は一種の哲學であつて、死に對しては非常な決心を以て打勝ち、一命を捨てゝかゝるからして恐るべき處がない、此の一命を捨てゝかゝつて來る者程恐るべきはないのであるが、我が武士道はさういふ點に於て特色が餘程鮮やかに見えるのである。

第四に武士道は名譽を尙ぶ、これは彼の乃木大將の歌に、

ものゝふは玉も黄金も何かせん、命にかへて名こそ惜しけれ。

と云つてあるが、よく其點を云ひ表はしたものである。武士は名譽が第一で、如何なる金銀財寶とも比較されるものでない、左樣なものは塵芥の如く投げ捨て武士としての名譽を最高度に發揮すればそれでよいのである。斯波義政の竹馬抄に『人は一代名は末代』といふ意味を述べて、實に大丈夫空しく死すべからずといふ事を述べて居る。武士は天晴なる功名を後世に傳へる樣な働きをしたい。殊に末後の處を立派にしたいといふ精神があるのである。乍併いくらか名譽を重んずるといふことの弊もないではない。除りに名譽々々といふ事の爲めに名譽心に驅られて、其實を忘れるやうな事がないとも云へない、名譽は其實に添ふたのでなくてはならぬ。元より虛名ではいかぬ。眞に名譽となる樣な働きでなくてはならぬ。伊澤蟠龍などは名譽より義を重んぜよと說いてゐる。名

譽も義に適つた名譽でなくてはならぬ。道德と一致した名譽でなくてはならぬ。

□質素禮儀體面廉恥信義

次に武士道に於ては質素を尙ぶ。驕奢は人を惰弱にするものであるが、質素は人を强健にするものである。其强健といふ事が武士の要求する處である。財寶を貯へたり、衣食を美にしたり、淫慾に耽つたりすれば退化して纎弱になつて了ふ。そこで武士道に於ては大に質素の習慣を奬勵して來たのである。之れは今日に於ても同じで、ラキジユリーといふ事は大に忌むべき事で、何處迄も勤儉質素を旨として行かねばならぬ。

それから武士道に於ては禮儀を重んずる、敵に對しても唯無禮傲慢といふやうな態度をとるやうな事をしない。何處迄も禮儀正しくして勝敗を決する樣になつてゐる。そこから見ると獨逸の軍隊の蠻行の如きは日本の武士道と一致して居らぬ。日本の武士道から見ればあゝいふ事は甚だいけない事になるのである。丁度日本が日英同盟の結果聯合軍の側に立つた時に獨逸の方では非常に日本の事を惡く云つたさうである。殊に有名なる學者のゾンボルトといふ人の如きは、日本人を猿に比して笑つたさうである。然るに、日本人は幸に獨逸人を左樣に罵る樣な事はなかつた。敵と雖も之を蔑まないで相當の敬禮を以て戰ふといふのが、日本の武士道の精神である。

更に武士道にては大に體面を尙ぶ、之は獨逸でもストルツと云つて却々尙ぶ處である。我國では彼の鎌倉の權五郎の場合の如きは全く此の體面を尙ぶ例に當るのである。

次に廉恥を重んずる、之れは體面を重んずるのと關聯したものであるが、凡て恥になるといふ事を大に忌むのである。辱かしめを受けては生甲斐がないといふ考である。恥を恥とするといふ心はなか〳〵立派で、武士は此の廉恥の心を失つてはならない。

また武士道に於ては信義を尙ぶ。それと同時に節を重んずる、それに又仁慈といふ方面がある。武士の情と云つて唯勇猛なるだけが武士の尙ぶ處ではない。一方に於ては水火も恐れずといふ非常な勇猛な方面があると同時に、又情が深いのである。此の情の方面が無ければ武士道は誠に殺風景なものであるが、優にやさしい情のあるのが眞の武士道である。獨逸の軍隊が白耳義人を虐待するが如きは情の缺乏を示してゐるので、日本の武士道からいふと大に非難すべき處である。

□東西洋の義俠の差違

なほ其他正直であるとか、雅量であるとか、忍耐であるとかいふ樣な道德を重んずる。就中義俠に就て一言して置きたいのは、西洋中世の騎士制といふのには此義俠といふのが大分あつたやうであるが、併し日本の武士道とは餘程違ふやうである、騎士制には若い女を助けるといふ風があつた。彼等は若い女を非常に尊んだものである。而も其若い女は處女でなくてはならなかつた。彼等は童貞を神聖視したのである。日本の武士道に於ては弱きを助け强きを挫くといふ事があつて、女を助けるのは義俠から來て居り、何も若い女、殊に處女に限つたものではない。老幼に關らず女性は凡て弱きものとして之れを憫れむ心があるのである。老人とか子供とか病人とかすべて弱い者に對しては同情をする。然るに中世の騎士はたゞ未婚の處女に對してのみ非常に尊敬の念を有して、ローマンチツクの活動をするといふのであるから、大分偏つてゐる。我國の此の武士道の義俠の精神は、德川時代に民間に傳染して俠客といふものが現はれた。俠客の一種任俠に富んだ處は却々に面白いものである。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

家庭教育の缺陷

青山女學院教授　塚本はま子

■家庭教育は決して母親の
＝獨占すべきものではない■

若い女學生などは、家庭教育といふ樣な事に就て考ふるのはまだ早いと思ふかも知れぬが、併し家庭教育は決して母親の獨占すべきものではありませぬ。どんな人でも家庭と云ふものには自分の身が幾らか關係して居るもので、現在は假令自分一人でも、過去に於て、或は未來に於て自分は家庭の一人であつた、又は一人であるべき時代があるのであります。殊に世の女學生達は多くの子供の姉、若い母、先進者として家庭教育に努力して貰ひたいと思ひます。

子女の教育を分ちて平常、家庭教育、學校教育及び社會教育の三となすが、實際は教育と云ふものは斯く確然と區別する事は出來ぬものであります。子供の接する物一として教育的感化を與へないものはない、電車の中でも教育を受ける、づるい人の行を見ては惡感化を受ける、又善い人の行を見れば、其事が子供に良い感化を與へます。

■子供の時に得た感化は
＝堅く〳〵頭の中に入つて■

將來の事業の基礎を作る例も少なくない。子供の社會より受くる教育の力は大なるものがあつて、啻に電車の中のみならず、町の店の裝飾などからは美術的思想を養ひ、其れにも或は高尙に、或は下劣に其品性を養ふのでありまして、之を考ふると、輕々しく店先にも物一つ出して置く事が出來ないと云ふ感が致します其他、芝居でも、活動寫眞でも、落語の如きものでも皆子供に感化を與へるものであつて、社會の教育は學校教育と共に子供に影響を與ふることは恐ろしいものであります。試みに子供を伴つて赤阪より四谷鹽町行の電車に乘つて御覽なさい其間に子供の問に對して私共は果して其問の幾分を完全に答へ得ませうか、時に其の問に對して顏を反けざるを得ない事があると思ふと。

■自分の智識の足りない事に
＝戰慄せずには居られませぬ■

併し私の今茲に述べんと欲する事は、以上の社會教育及び學校教育の事に非ずして、第三の家庭教育に就てゞあります。固より教育とは人に魂を入れることであります。人に魂を入れる事は學校の教師の言葉に依つてゞあらうが、併し子供の中に入つて居る靈性を引伸ばす事は言葉のみでは出來ない。子供の教育は學校の教師の仕事であるとのみ思つて居るのは大なる誤であつて、學校の教育と云ふものは極めて力の弱いものであります。子供の父母がよく教師に御禮を云ふ事を聞くが、然し果して何れだけの教育を其子供が教師より得たでありませうか。成程、字を書くこと〻、讀むことは教育されたかも知れませぬが、人格を作る事に就ては學校の教育はゼロであります。人の子を害ふと云ふ言葉があるが、實際其事が屢々ある程學校の教育は力弱いものであります。

■或る國民性、或る地方的
＝性質を人間に持たしめて■

其人間の型を作るのは卽ち家庭教育であります。此の家庭で受けた教育は永久に子供の頭から拔けない。而して家庭の教育は學校教育の樣に言葉ばかりではいけませぬ。茲に指物師があつて一個の机を作るとして其指物師が丸い顏をした人間であつても技術によつて四角な机を造る事が出來、又裁縫師が一枚の衣服を縫ふ際に、たとひ其手本が惡くとも、其人の技術さへ巧

Digitized by Google　　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ければ良い衣服が出來るが、教育は左樣な譯には行かぬ、自分は僞善、虚榮、不正をやりながら子供を善良な人間に教育しようとした所で駄目であります。教育は技術ではありませぬ。

子供には目があり耳があるから、之だけ見てあとは見るなと云ふことは申されませぬ。世間の方はよく、我が子の癖を直すにはどうしたらよいかとお尋ねになりますが、子供の癖は此んな心掛では到底直るものではありませぬ。昔、

■ロックの許に二つになる―
―子供を抱いた母親が來て■

子供の教育法を問ふた時に、ロックは慨然として「あゝ遲かつた、汝は既に二年間の教育を等閑にして了つた、教育は生れると共に初めなければならぬ」と嘆ぜられたと云ふ事であるが、子供の教育はどうしたらよいかとか、どうすれば子供の癖が直るかとか云ふ樣な技術的方法では不可ないもので、其子供の親なる人の人格の如何によるのであります。而して子供の教育には、母親とか父親とかゞ全責任を負ふて、他の人には無關係であるかと云ふに決してさうではありませぬ。其家族は固より、下女でも車夫でも運轉手でも、醫者などの家では看護婦までが子供に影響を與へるものである。机や着物は無生物であるけれども子供は生きた性質を有ちまする故に、周圍の凡ての事が其の心中に泌むものであります。是を考ふると眞に怖ろしい氣がせずに居られませぬ。

一體、日本人は習慣といふものであらうか、あまりに遠慮深い樣であつて。

■他人の子供などは少しも―
―構はない風習があるのは■

善くない習慣であると思ひます。子供の惡い行を見たら、自分の子供であらうが、他人の子供であらうが私は遠慮なく、之を叱るのであります。勿論大した事は出來ませんが、子供の二三人の下駄の花緒を立てゝやる位の躾は常に私は袂に入れて用意して居ります。子供には自他の區別を附けてはなりませぬ。

以上は大なる意味の家庭教育でありますが、もう一つ狹い意味の家庭教育に就て考へなければならぬ事は、子供に成るべく世話を燒かぬ事であります。子供の能力は、出來るだけ他から干捗せずに之を充分に發達させなければなりませぬ。子供の性質は實に面白いもので、大人も及ばない工夫をするものでございますが、漸次中年になりますと工夫が足りなくなる。私は多くの女學生に日々接して居て、もう少し自分で工夫したら良かりさうなものでありますのにと云ふ感じが時々する事があります。日本の家庭の實際を見ますと。

■毎日々々子供の工夫力を―
―減殺する事をやつて居る■

子供や孫の愛着心に驅られて、母、父、祖母、祖父等互に子女の面倒を見てやる事にばかり心を注ぎ、其結果は子供の工夫力を殺ぐことの夥しい事は嘆かはしい事であります。子供が仕事をする時には、親は成るべく之を構はずに、子供の忍耐力を練習せしめなければなりませぬ。教育と云ふ六ケ敷い範圍を越えて、子供自ら經驗して之を實現せしむる事が肝要でありませう。之は啻に手の仕事のみならず、頭の仕事も左樣でございますが之には親たる人家庭教育者たる人々の大なる努力と工夫とが必要であります。

合本用の廓清の不足を早速御寄贈下さいました方々に厚く御禮を申上ます、倘昨年の一、二、四、六、七、號をお持ちの方はお惠みを御願ひします。（本部）

生活難の裏面

小林隆之助

「ヤア又米が昂つた。復騰つた。一體什うして這麼に高くなるんだらう。大方政府の役人達は圓に三升の米を食つて、是で國民が生きて行かれると思つて居るに違ひ無い。何たる無能な政府だらう。豈夫此生活難の叫びが聞えぬ譯でもあるまいのに。今更物價調節令の研究中だ抔と高を括つて、飽く迄國民を馬鹿扱にするとは實に言語同斷だ。」

都に住む人達の口からは斯う叫ばれる。けれども地方の人達は

「何の利益あつて米穀の海外輸出を禁するか。米が騰いとて泣言をいふ人達もあらうが、產出が年々減少する代り、反對に消費が多くなれば騰貴するのは當然じやないか。米が高くて困るなら、此近年荒れて行く地方に來て生產者になつたら良い。政府も政府だ。僅か一部消費者にのみ肩を持つて、此國家樹立の根本たる大多數の吾々を無視する抔は全く不都合千萬だ。」

斯うしてお互に絶叫して居る間に立つて、國務を處理して行かねばならない政府當局者の身になつたら、嘸骨が折れるだらうと思ふと、感謝の念が湧く。加もそれ許か、曩には議會の問題となつて、公布が遲いの、否やれ範圍が狹いのと多分な批難攻擊を受けて迄も、否應なしに忍ばねばならなかつたといふ事は實に氣の毒である。當局者とても生產減額の事實上から、到底圓滿な需要供給が得られぬ位は疾に承知して居た處であらう。だから什麼手段を講じても、無い袖は振れぬの道理で、物價の昂騰は當然の趨勢として、之を豫期して居たに相違ない。然るに計らざりし調節令が出た。確立せざる經濟界は夫が爲めに一時動搖した、一部の人達は忽ち欣喜して潔く政府の無能呼ばりを取消したけれども、夫はホンの時の間で又復相場は前に逆戻つて終つたのである。斯くて折角苦心した筈の調節令も、只一片の空文となつて了つたけれども當局は毫も驚かぬであらう。因に此矛盾せる政策其者が、種々と複雜つた餘儀ない事情から、當座の間に合はせ手段として出したに過ぎぬのであらうから。

併し之は記者自身の淺見なる觀察であるから、事實は是と反對であるかも知れぬ。若し然うだとすれば、夫こそ無能を連發されても、辯解の詞がないであらう。然るに議會に於ける當局者の辯明では、調節令を以つて物價を下落させる事が出來ると主張した。之に依ると或は然う信じて居たやうにも思はれてならない。啻に議會の辯明許りでなく、他の事態を相合してもさうした事實が續々と現はれて來る。元來物價の調節は、根本に於て生產消費の關係を圓滑平均ならしむるが原則であらねばならぬ位の事は、少しく經濟智識のある者なら知つて居る。此立場から見れば人爲的は第二位であつて、決して人爲的のみで今日の如き空前の高價を持續する事は出來得ないにも係らず、根本の生產對消費に着眼せず、徒らに一部の商人に對してのみ其自由を剝奪するのは全く益の無い政策である。加之米穀の海外輸出を禁ずるが如きに至つては、他の物價騰貴を是認し乍ら、獨り米穀の騰貴を赦さぬといふ、眞に不公平な政策ではあるまいか。從來地方人の積年の疲憊は實に慘な者であつた。租税に堪へ兼れて居る其上他の物價の不平均から遂に先祖傳來の遺產をも投打て了はればならぬ中產階級が續々現出したやうな次第であつた。斯る空氣に成長した青年の頭腦には、地方の切なさを痛切に感じ、果ては都へ〳〵と集るに至るのである。夫が爲め地方は年々手不足に陷つて、田畑は益々荒廢するに至つたのは當然であると言はればならぬ。然うした不安と苦痛と壓迫から、漸っと脫れる事が能る樣になつたと昨年頃から、少しく焦眉を切抜けられると喜んで居る矢先、又候都會集中策を執るが如きは、什う考へても米穀の生產は減る許りで、決して增收抔は思ひも寄らぬ事である。誰やらが云つたやうに「現在の國家は都會國家で、地方抔はテンデ眼中に無いから、逐年都會の增大するに反し、地方は見る影もなく荒廢して行く。而して都會の人達は常に生活難を叫び乍ら、其實贅澤難に苦悶して居る。」と。之は確に事實である。都會の人達の叫ぶ生活難は、一部の階級を除くの外決して眞の生活難ではない皆贅澤難である。さうだ、全く其贅澤難の苦しい叫びなのである。

茲に之を立證する適確な事實がある。夫は吉原遊廓の景氣である。迚も遣切れぬと叫び乍ら、一方に於て如斯場所へ惜氣もなく、多額の金を費して一夜の愉快を貪りに行くといふ事實は、之を以ても未だ〳〵眞の生活難ではない事が判る。左に昨年中に於ける遊客數に就て、前年の大正五年分とを比較して見ると

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

月別	大正五年	大正六年	差引増加
一月	一一三、一二六人	一二八、三五八人	一五、二三二人
二月	八九、〇九九	一一一、三八〇	二二、二八一
三月	九四、六八五	一二一、九七八	二七、二九三
四月	一〇六、三二二	一五〇、九二八	四四、六〇六
五月	一〇三、三三一	一三五、九四八	三二、六一七
六月	九六、三五七	一二一、一八七	二四、八三〇
七月	九五、七五三	一三九、二一七	四三、四六四
八月	九〇、八五三	一三三、八六三	四三、〇一〇
九月	九二、八二八	一二七、九五五	三五、一二七
十月	一〇五、六〇九	一四九、四四六	四三、八三七
十一月	一一七、九九一	一四七、六七四	二九、六八三
十二月	一〇〇、三三〇	一二九、九〇六	二九、五七六
合計	一、二四〇、〇二八	一、五七六、八三五	三三六、八〇七

之で観ると丁度三割弱といふ非常な増加率を示したのであるが、或者は此理由を私娼撲滅の影響だといふ。けれども所轄日本堤署の係官は、決して然うではないと明言して居る。「假令増加の傾向はあつても夫は殆ど數ふるに足らない。全く社會の好景氣の然らしむる處で、其事實は之を見ると直ぐ判る。」と。之で生活難を絶叫して世を呪ふのは隨分我儘千萬な話ではなからうか。食ふに困る、迚も耐らぬと滾し乍ら、毎夜繰込む遊客數は一日平均、

大正五年	大正六年	差引増加
三、四四四人	四、三八一人	〇、八三七人

僅か三千餘人の頭數の處へ、八百卅七人といふ激増を示して居るではないか。娼妓が夫に應ずる丈、増加したのか。否決して然うではない。今兩年を比較すると、

月別	大正五年	大正六年	差引増加
一月	二、三九八人	二、三八六人	一二人
二月	二、三七四	二、四一二	三八
三月	二、三六五	二、四四〇	七五
四月	二、三五一	二、四八一	一三〇
五月	二、三二七	二、五一八	一九一
六月	二、三二五	二、五〇〇	一七五
七月	二、三〇〇	二、四六三	一六三
八月	二、二九四	二、四二七	一三三
九月	二、二九二	二、四〇八	一一六
十月	二、二九八	二、四二八	一三〇
十一月	二、三〇〇	二、四一七	一一七
十二月	二、三六一	二、四五五	九四
(平均一ヶ月)	二、三三二	二、四四四	一一二

娼妓の割合は四分七厘であるから、遊客數に比較すると二割五分丈少ない勘定である。だから娼妓は多くの客に接して自然收入も多くなる可き筈なのに、五年より六年の方が借金が多く減つたといふ話を聞かぬのは如何したものか。遊客の散財高が生活難の爲めにそれ丈減額したのかと調べると

月別	五年	六年	差引増加
一月	二三九、一二六円	三四九、三二〇円	一一〇、一九四円
二月	一八二、三二一	二六〇、八〇〇	七八、四七九
三月	二〇四、四三四	二八六、二三一	八一、七九七
四月	二三三、八一五	三三七、六四八	一〇三、八三三
五月	二〇七、三四四	二八七、九四八	八〇、六〇四
六月	一九三、九二九	二七八、二九〇	八四、三六一
七月	二〇六、五〇一	二八九、八三二	八三、三三一
八月	一九四、二七〇	二八〇、七八六	八六、五一六
九月	二〇七、六〇六	三〇六、八九一	九九、二八五
十月	二四七、二七七	三八〇、〇〇一	一三二、七二四
十一月	二六九、六八八	三七一、一三〇	一〇一、四四二
十二月	二三九、七三九	三三一、一九五	九一、四五六
合計	二、五三三、〇八〇	三、七五九、七七五	一、二二六、六九五

之で観ると散財高の割合は四割四分三厘の増加であるから、結局一人宛の遊興費増額は約一割五分に當る。

大正五年	大正六年	差引増額
二、〇三〇円	二、三七〇円	〇、三四〇円

勿論是は席料と揚代のみの額丈であつて、茶代や花代は毫も含まれては居ないのである。けれども大體に於て五割増と見れば至當であらうから、實際の遊興高は僅に三圓に逵する譯である。其内娼妓の所得となる可き額は極めて僅であつて、大部分は娼妓を中心として卍の如く食ひ捺つて居る人間の懐に入れられるのである。無智な纖弱い彼等は全く生た思ひの絶無な日を斯うして過すのであるが、毎夜幾何の遊冶郎に接するか、入院患者其他の事故休業の者迄含めて割當てれば、

五年	六年	差引増加
一、三三四人	一、七七八人	〇、四四四人

である。而して一ヶ年間の一人の娼妓稼高は

五年	六年	差引増加
一、〇八一、四九九円	一、五三〇、一八六円	四四八、六八七円

となる勘定である。

生活難の叫び!!夫は眞に生存の爲であらねばならぬ。徒らに贅澤難、而も一夜の快に斯る多額を惜氣もなく打棄てゝ、一方政府や商人に楯付くが如きは全く言語同斷である。けれども獨り彼等遊蕩兒のみを咎むる譯には行かない。此尨大な不生産的制度を公許し之を保護して居る政府にも罪がある。公娼存立は風教維持の必要上止むを得ずといふならば、私娼撲滅後に於ける吉原遊廓に及ぼした影響は果して幾何ぞ。事實の前には何者と雖も權威がない。統計は立派に公娼不必要を語つて居るではないか。物價調節令も結構には違ひ無い。併し其根本に於て如斯大多數の不生産者の生存の點に着眼せねばならぬのである。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

遊廓物語（十）

救世軍少佐
婦人救濟係　伊藤富士雄

□□院長と警察と樓主の三つ巴、
横濱に於ける近來の惡戰□□

今年の二月始め以來、横濱遊廓眞金町病院入院患者たる一婦人より前後四回の手紙が余の手許に屆き、樓主の殘酷と病寃の苦痛とを訴へて救を求めて來た。其書簡に依れば、女は横濱永樂町勢州樓矢島峯次郎方娼妓初音とて、父が材木商にて失敗したゝめ昨年の暮六ヶ年六百圓の前借にて未だ十九歳の處女の身を無慘にも同所に賣られ、父は早稻田に貧しき詫住居をして居る事が知れた。余は本人に會ふ前に先づ委しき事情を確めんものと父を早稻田に訪ふた所が、父母は唯「可哀相な事をしました、不憫な事をしました。娘からは三日にあげず助けて呉れ、助けてくれと手紙が參りますが、別段今となつては致し方がありません」と涙ながらに語るのであつた。初音は一は生活難より一は女郎に對する虛榮より暮の廿八日始めて娼妓に身を賣り初店早々過度の稼業をした爲に僅かに一週間餘りにて入院する身となり何日退院の見込もなく、病院も八疊の狹い室に七人の患者と同居しての苦痛の有樣が四回の文面に詳しく書き盡してある。

余は二月十五日始めて眞金町病院を訪問して初音に會はん事を求めた處が、院長神奈川縣警察醫清水逸二氏は故なく患者との面會を拒絕したので、余は不本意乍らも病院を辭し去り、此事を所轄壽町警察署の警部に告げ、第一、眞金町病院長清水逸二は娼妓取締規則第十二條を無視して理由なく患者の通信面接を拒絕するもの、第二、正當の理由あるものなれば面會の便宜を取計られたし、第三、面會して娼妓の書信の内情より廢業に關する事情を語り合ひたしと訴へ居る所へ樓主來り、やがて警部は余を警察署に殘して樓主と共に病院指して出で去つた。余は其成行を氣遣ひながら警察署に待つて居たが待てども／＼歸り來らず漸く待つこと三時間餘にして警部は勢州樓の番頭を伴ひ來り、番頭は余に一通の手紙を渡した。警部は「娼妓は意志を翻し今番頭が君に渡した手紙の如く自由廢業を見合せたから、歸つて呉れ」と番頭と共に口を揃へて言ふ故、余は「夫は違法である、こんな手紙を受取りして本人の眞心を知る能はず、先に貴官に御依賴せしは、斯んな手紙を貰ふ爲ではない。第一院長の面會の妨害の告訴、第二、面會の取計ひ、第三、通信の取調の爲である。貴官は娼妓救濟に關する余の重大の權利を無視して何を戯るゝや。此上は致し方ないから不法を上級行政廳に訴ふるより道なし」と立上りしに、警部はあはて止むる故、然らば娼妓に面會せしめよと迫つた所が、警部は病院に電話をかけて巡査をして女を伴れ來らしめた。時に午後六時。

茲に余は始めて娼妓に面會したが、娼妓は悲憤の淚禁ずる能はず、尋ぬれば尋ぬる程泣く許りで少しも要領を得ない。二時頃より六時頃までの間に樓主と警部とが病院にて怪しき密約を結びしは察するに餘りあるも、本人は只泣くばかりなる故、余は「女の泣く顏を見に來たのではない。是程泣くものが如何にして自廢取消の手紙を書きしや」と警部に詰りしに、警部は結局女に三日の休業を許して早稻田の親元に一時返す事に樓主との談合が纏りついたと云ふから、余は初めて安堵して七時頃歸京したが、余は其翌々日再び早稻田の親元を訪ひ、娼妓に面會して病院に於ける警部の取調の樣子を聽くに、應接所の一隅に於て樓主と警部が立會ふて始めより終りまで警部は樓主に口を添へて、自由廢業すれば詐欺になり親子諸共懲役になる事、救世軍に行けば多額の費用を要した上救濟所に入れられ自由を束縛さるゝ等の虛言を並べ立てゝ女を脅迫し、自廢の取消書を無理に認めさせて余を追ひ歸す魂膽が解つた。

かくて余は娼妓の權利を庇護する爲、又病院の不法處置を訴ふる爲有吉神奈川縣知事、警察部長、保安課長等を訪ひて其事情を具申し、更に其翌日壽町署に出頭して林警視に面會し、警部と娼妓との對質を要求したが警視は要求を拒絕したから、余は前後の顛末を說明して、規則の通り書面又は口頭により名簿削除の申請を本人の希望に依つて容れられよと言ひしに、警視も遂に困じ果てゝか副官に命じ、漸く削除申請を受理して、娼妓を自由の身に扱ふ事が出來た。(續)

遊廓移轉

隨分古くから移轉するの、ヤレ買收されたのと兎角の噂があつた例の新宿遊廓の整理問題も、愈々此程眞實となつて近く移轉の運びを見るさうである。多分來る十日頃になれば其筋から發表される筈であるが、之と同時に何故品川遊廓等も整理しなかつたかといふ齒痒ゆさに堪へられない。

編輯の後

□近頃メツキリ私娼が激増して來た。市内到る處の曖昧料理店や玉突場等には、尠くても二三人位の怪しげな女が常にゴロ〳〵して遺憾なく風紀を紊亂して居るやうであるが、斯る事實を疾うに知り乍ら平氣で澄込んで居る當局者の考へは一體什う始末する氣なのであらう。豈夫これを當然の趨勢として是認しては居るまいのに、抛つて置いて成行の儘に委せて置く杯は如何したものか。何も吾々は多忙な當局者に向つて、一々是等の事實を突止めて嚴重に處罰して貰ひたいとは望まない。けれども常に此重大な風紀問題を過眼視するやうな事があつては甚だ寒心に堪へぬ結果を齎するに至るではないかと、只管心配でならないから玆に其の一事實を揭げて當局者に向つて反省を促したい。

□本部が芝から此處に移轉して未だ間もない時の事である。丁度此隣に琴富貴といふ西洋料理店があつて、吾々は近いのが何よりだと時折蓋飯の辨當を注文して居た。すると初めの内は三十五六の年増女が料理を運んで來るので、別に氣にも留めずに居たのであるが、暫時するさ白粉をコテ〳〵塗つた廿歲前後の白いエプロンを掛けた女が運ぶやうになつた。問題は忽ち玆から起つた。

□或時、記者が皿を片附けやうとすると、皿の下から小形の金箔で緣を飾つた女の名刺が出た。今で考へて見ると其名刺の表には「きみ子」とかいふ名前が印刷せられてあつたと記憶して居るが、偶然、皿の底に密着したものではなく、何か物にする處があつて仕組んだ策に相違ないといふ事實が、段々內情を探ぐつて見ると明瞭になつた。其處で次の日に其女が來た際に、斷然岩藏の如うな態度の曖昧な婦人には出入を禁ずる旨を宣した。然るに女は平氣の平坐でセヽラ笑ひ乍ら「何うも濟みませんネ」と云つて歸つたが、其後は何回注文しても庖料が切れたとか、男の出前持が居ないとか云つて應じなくなつた。併し吾々は夫れが爲め別段の不自由を感じないけれども、如斯事實が到る處に於て公々然と演ぜられて居るといふ事は、之れに就て見ても事理甚に明白であらうと思ふ。だから風紀が益々紊亂の極に達しつゝあるのは當然であつて、何等怪しむに足らぬのである。現在に子を持つ親の氣苦勞は全く並大抵ではないといふ事が染々感ぜられる。

□上述の事柄は當時東京夕刊新聞紙上に於て、何れの處から傳聞したか此事實有りの儘を記載したから、讀者諸君の內には定めし既知の方もあらうと思ふ。之では如何に社會が青年男女の純潔を要求した處で、到底如斯墮落の罠が到る處に網の如く張つめてある以上は其實蹟を擧げやうとしてもそれは無駄な事である。當局者は私娼撲滅の効果を自畫自讃して居る。けれども其間に斯うした狀態が眼前に表現して居る事を忘れてはならぬ。而して彼等腐肉の群は益々猛烈な勢ひを以て容赦なく、市内の拔處彼處に陣を據め、其處を本據として、種々な手段を案出しては何うかして多くの青年を豬さうと日夜其策に苦心して居るのである。前記琴富貴といふ家に雇はれて居る二三人の女も、毎夜十時頃になると皆何處へか出張するといふ話であるが、それは言はずと知れた泊込みと稱する賣春に行くのである。彼等の數は最早需要者よりも遙に多數であるから、到底從來の手段では、商買にならぬからである。而して其夜の相手方を得んが爲めには、種々の手段を盡して或時は辻君となり、又或時は記憶のある遊冶郎の居宅へ押掛けて行く。

□それと又同等の勢ひを以つて跋居して居るのは藝妓である。一昨年頃迄は左程甚數はなかつたさうであるが、近來は到る處の路次には是等の不生產的な人間がウヂヨ〳〵として、賣春婦以上の風紀を紊して居るのである。記者の居住所附近(神田小川町角)には殊にそれが甚數、毎夜夜中の一時、若くは二時頃に至る迄猥褻な放歌、それとともに三味線の雜駁な音は何時も止んだ事がない。堅氣の家庭では酷い迷惑を受けて居るが、彼等は額に汗して働く神聖な人達を眼下に瞰下し乍ら、其日々々を享樂な生活に何物にも驚かずに、只管遊蕩兒の品評めに飽く事を知らず暮して居る。斯ういふ空氣の中に育てられた、下級の家庭から貞操觀念の極めて薄弱な子女の出るのも無理ならぬ話ではあるまいか。世の敎育家、宗敎家、政治家等は此事實に就て什麼考へを持つて居るか。又之と直接關係のある當局は如何なる手段を盡さんとするか、犯罪を容赦なく罰し乍ら其根本問題の、之等の事實に就て若しも對岸の火災視して一向省みぬならば、社會は遂に滅亡するに至るであらう。敢へて世の識者の一考を煩したい次第である。(隆生)

大正七年三月一日印刷(毎月一回一日發行)
大正七年三月一日發行 一部金七錢郵稅共

編輯兼發行人 神田區今川小路一丁目三番地 伊藤秀吉
印刷人 小石川區大塚窪町一番地 久保民生
印刷所 京橋區弓町十三番地 千代田印刷株式會社
發行所 神田區表猿樂町十番地 廓清會發行所
電話本局六二四番
振替東京二七〇七二番

◉御注文の際は必ず雑誌『廓清』による旨を申添を乞ふ◉

産婦人科。小兒科
女醫 吉岡彌生
鷲山改め
△院長診療 宅診午前 往診午後
△醫員診察 午後
產室及病室の設けあり隨時入院の需めに應ず
東京市麹町區飯田町四丁目三十一番地
東京至誠病院
電話番町二二五七番

山室軍平氏著
社會廓淸論
特價七十錢 郵稅八錢

グレゴリー氏著（邦譯）
歐洲諸國公認醜業制度廢止運動
特價税共十錢

伊藤秀吉氏著
娼妓自由廢業案內
特價税共十二錢

酒きらひになるくすり

どんな酒煙草のみでもからだに少しも害なく心からきらいになること妙
郵券二錢送れば説明書及大澤博士其他名士の禁酒禁煙論を進呈

禁酒丸
一週分一圓
二週分一圓九十錢
三週分二圓八十錢

禁煙液
五拾錢
壹圓
壹圓五拾錢

煙草きらひになる藥

本舗 大阪靭南通二丁目 森田商店
電話土佐堀二六〇二番
振替大阪三三一二六番